

# 高知県埋蔵文化財センター年報

第22号

2012年度

公益財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



# 高知県埋蔵文化財センター年報

第22号

2012年度

公益財団法人 高知県文化財団  
埋蔵文化財センター



## 序

高知県埋蔵文化財センターは大規模開発に対応すべく円滑な発掘調査事業の推進と共に高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を広げるべく指定管理者として取り組んでいます。

まず、発掘調査事業では国関係で高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務、県関係では国道195号活力創出基盤整備総合交付金埋蔵文化財資料整理委託業務と新資料館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務を受託し、南国市田村北遺跡を始めとして4遺跡の発掘調査と香南市東野土居遺跡や南国市祈年遺跡を含む12遺跡の整理作業を中心に実施しました。田村北遺跡は、調査面積が27,700㎡と広範囲に及ぶもので、隣接する田村遺跡群との繋がりを示唆する遺構や遺物が多数出土し、弥生時代の集落の変遷を考える上で貴重な資料を提供しています。

次に指定管理事業では出前考古学教室、公開講座等事業、企画展等事業を三本柱とし、出前考古学教室では71校に出向き、親子考古学教室では四万十市と宿毛市に加え安芸市でも開催し、より多くの県民の方に参加して頂けるよう計画し、かつ古代ものづくり体験教室の平日開催や開催回数の拡大など昨年度以上に充実した内容の公開講座を用意すると共に企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めました。

また、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図ると共にチラシの配布など行い、親子考古学教室では延べ938人の親子に参加頂きました。さらに、「ミュージアムキャラクターアワード2012」への参加や高知県文化財団として県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知への参加など埋蔵文化財センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進する計画です。そして、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年9月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター

所長 森田 尚宏

## 例言

1. 本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 24 (2012) 年度事業の概要をまとめたものである。
2. 「Ⅲの2の(4) 出前考古学教室」と「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」は担当が中心となって執筆し、廣田が取りまとめ編集した。それ以外は廣田が執筆、編集した。
3. 「Ⅳ 各遺跡の発掘調査概要」に掲載した遺跡位置図はS=1/25,000の地形図を使用している。
4. 本書作成データについては、巻末の奥付上段に記している。

# 本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団..... 1	III 年間事業の概要..... 7
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要..... 1	1. 発掘調査事業..... 7
(1) 設立趣旨..... 1	(1) 受託事業..... 9
(2) 目的等..... 1	(2) 発掘調査報告書..... 11
(3) 設立年月日..... 1	2. 指定管理事業..... 12
(4) 名称変更年月日..... 1	(1) 公開展示..... 14
(5) 事務局所在地..... 1	(2) 公開講座等..... 16
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織..... 2	(3) 情報公開等..... 19
(1) 財団組織..... 2	(4) 出前考古学教室..... 23
(2) 財団役員..... 2	(5) 研修事業..... 29
II 埋蔵文化財センター..... 3	(6) 講師等職員の派遣..... 29
1. 埋蔵文化財センターの概要..... 3	IV 各遺跡の発掘調査概要..... 31
(1) 設立趣旨..... 3	1. 田村北遺跡(12-1NTK)..... 31
(2) 事業内容..... 3	2. 天神溝田遺跡(12-2ITM)..... 35
(3) 設立年月日..... 3	3. 奥名遺跡(12-3IO)..... 37
(4) 埋蔵文化財センター所在地..... 3	4. 弘人屋敷跡(12-4KY)..... 39
2. 埋蔵文化財センターの組織..... 3	V 条例・規則等..... 43
(1) 埋蔵文化財センターの組織図..... 3	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する条例..... 43
3. 埋蔵文化財センターの施設..... 5	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に 関する規則..... 47
4. 利用方法等について..... 6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定..... 48
(1) センターの利用..... 6	
(2) 利用時間..... 6	
(3) 休館日..... 6	
(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先..... 6	

# 表目次

表1 高知県文化財団評議員..... 2	表11 平成24年度考古学講座..... 18
表2 高知県文化財団役員..... 2	表12 平成24年度発掘調査報告会..... 18
表3 平成24年度高知県埋蔵文化財センター職員 一覧..... 4	表13 平成24年度公開講座2(親子考古学教室)..... 19
表4 発掘調査推移表..... 7	表14 平成24年度Web公開した報告書等..... 20
表5 平成24年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡) 一覧..... 8	表15 平成24年度物品(県有物)貸出一覧..... 21
表6 平成24年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書 刊行分)一覧..... 9	表16 平成24年度施設見学者一覧..... 22
表7 平成24年度埋蔵文化財センター刊行報告書 一覧..... 11	表17 平成24年度現地説明会一覧..... 22
表8 入館者推移表と平成24年度の入館者..... 13	表18 平成10～24年度出前考古学教室実績一覧..... 23
表9 公開講座参加者数..... 16	表19 平成24年度出前考古学教室前期実績一覧..... 25
表10 平成24年度公開講座1..... 17	表20 平成24年度出前考古学教室後期実績一覧..... 27
	表21 平成24年度職員専門研修..... 29
	表22 平成24年度埋蔵文化財担当者研修参加者..... 29
	表23 平成24年度講師等派遣依頼一覧..... 30
	表24 平成24年度会議等参加者一覧..... 30

## 図目次

図 1 高知県文化財団組織図.....	2	図 7 平成 24 年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘 調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)....	10
図 2 高知県埋蔵文化財センター組織図.....	3	図 8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合....	13
図 3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と 1F 平面図 (S=1/800).....	5	図 9 マスコット.....	14
図 4 高知県立埋蔵文化財センター 2F 平面図 (S=1/800).....	6	図 10 田村北遺跡位置図.....	31
図 5 受託発掘調査事業推移グラフ.....	7	図 11 天神溝田遺跡位置図.....	35
図 6 平成 24 年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発 掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致).....	8	図 12 奥名遺跡位置図.....	37
		図 13 弘人屋敷跡位置図.....	39
		図 14 遺構平面図.....	40

## 写真目次

写真 1 年間行事カレンダー.....	12	写真 20 職員専門研修 2.....	29
写真 2 企画展 1 ポスター.....	14	写真 21 竪穴建物跡群.....	31
写真 3 巡回展報告会.....	15	写真 22 井戸状遺構.....	32
写真 4 巡回展ポスター.....	15	写真 23 大溝跡.....	32
写真 5 企画展 2 ポスター.....	15	写真 24 掘立柱建物跡.....	33
写真 6 特別展ポスター.....	15	写真 25 溝に囲まれた屋敷跡.....	33
写真 7 特別展記念講演会.....	15	写真 26 発掘調査風景.....	34
写真 8 掘りゆうぜよ高知 2012.....	17	写真 27 掘立柱建物跡.....	35
写真 9 勾玉づくり.....	18	写真 28 肥前系陶器(唐津焼)出土状態.....	36
写真 10 土器づくり.....	19	写真 29 遺構完掘状態(南西より).....	37
写真 11 ホームページ.....	19	写真 30 井戸跡.....	38
写真 12 施設見学.....	21	写真 31 溝跡の断面.....	39
写真 13 現地説明会 1 (弘人屋敷跡).....	22	写真 32 溝跡.....	41
写真 14 現地説明会 2 (田村北遺跡).....	22	写真 33 甕棺墓.....	41
写真 15 授業.....	24	写真 34 木棺墓.....	41
写真 16 遺物の展示解説.....	24	写真 35 井戸跡 1.....	42
写真 17 火起こし.....	26	写真 36 井戸跡 2.....	42
写真 18 土器づくり.....	26	写真 37 土師質土器出土状態.....	42
写真 19 職員専門研修 1.....	29		

# I 公益財団法人高知県文化財団

## 1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

### (1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代すう勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足予定であり、また、その数年後には美術館が開館を控えている等、県民文化の振興のための施設整備がなされつつあるところであるが、これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに、高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって、本県の新しい時代の、総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

### (2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### (3) 設立年月日

平成2年3月28日

### (4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団を名称変更し、移行したことにより設立

### (5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

## 2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

### (1) 財団組織

#### ① 役員

評議員7名 理事長1名 理事10名 監事2名

#### ② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

#### ③ 組織図

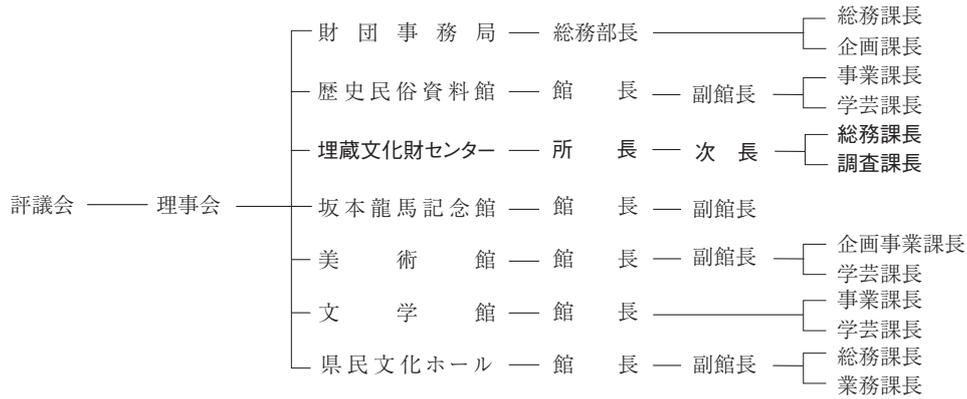


図1 高知県文化財団組織図

### (2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	内川 雅彦	(株)高知新聞社学芸部長	平成24年4月1日就任
〃	岡崎 順子	高知県教育委員会事務局教育次長	平成24年4月1日就任
〃	田中 正澄	高知県町村会事務局長	平成24年4月1日就任
〃	中澤 慎二	高知県市長会事務局長	平成24年4月1日就任
〃	松岡 さゆり	高知県文化生活部副部長	平成24年6月11日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行代表取締役頭取	平成24年4月1日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成24年4月1日就任

平成25年3月31日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	千葉 健		平成24年4月1日就任
理事	青木 章泰	(株)四国銀行取締役会長	平成24年4月1日就任
〃	伊野部 重晃	(株)高知銀行代表取締役会長	平成24年4月1日就任
〃	大崎 富夫	高知県文化生活部長	平成24年4月1日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成24年4月1日就任
〃	竹内 克之	高知商工会議所副会頭	平成24年4月1日就任
〃	南 裕子	高知県立大学学長	平成24年4月1日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成24年4月1日就任
〃	山本 眞壽	染織家	平成24年4月1日就任
〃	吉岡 珍正	前高知県町村会長	平成24年4月1日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成24年4月1日就任
監事	酒井 満喜	(株)四国銀行お客さまサポート部長	平成24年8月22日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成24年4月1日就任

平成25年3月31日現在

## Ⅱ 埋蔵文化財センター

### 1. 埋蔵文化財センターの概要

#### (1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

#### (2) 事業内容

##### ① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を行い報告書を刊行する。

##### ② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

##### ③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

##### ④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

##### ⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

#### (3) 設立年月日

平成3年4月1日

#### (4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

### 2. 埋蔵文化財センターの組織

#### (1) 埋蔵文化財センターの組織図

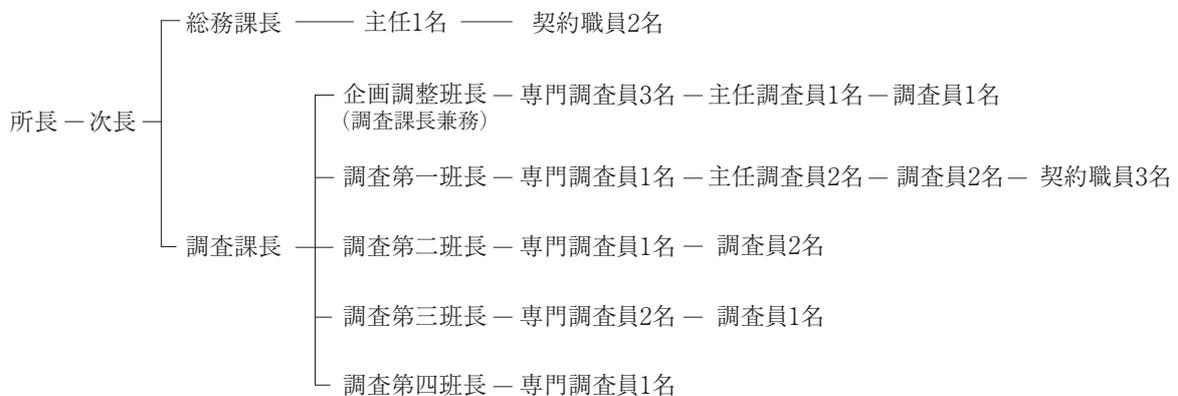


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成24年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		森田 尚宏	県教育委員会文化財課副参事	
次 長		嶋崎 るり子	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長	里見 敦典	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	主 任	黒岩 千恵	県教育委員会文化財課主任	
	契約職員	榊 琴美	(公財)高知県文化財団	
	〃	濱田 晶	〃	
調査課	調査課長	廣田 佳久	県教育委員会文化財課主任(3種)	
	企画調整班	企画調整班長(兼)	廣田 佳久	〃
		専門調査員	安岡 猛	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	藤野 明弘	〃
		〃	谷脇 正	〃
		主任調査員	徳平 涼子	(公財)高知県文化財団/産休・育休
		調 査 員	下村 裕	県教育委員会文化財課主査
	調査第一班	調査第一班長	出原 恵三	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	前田 光雄	県教育委員会文化財課主任
		主任調査員	筒井 三菜	(公財)高知県文化財団
		〃	久家 隆芳	〃
		調 査 員	宮里 修	県教育委員会文化財課主査
		〃	畠中 宏文	(公財)高知県文化財団
		契約職員	奥宮 千恵子	〃
		〃	友永 可奈	〃 (4~7月)
		〃	都築 由佳	〃 (4・5月)
		〃	小八木 美佐子	〃 (6月~)
	〃	廣内 美登利	〃 (8月~)	
	調査第二班	調査第二班長	池澤 俊幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	北井 達朗	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		調 査 員	山崎 孝盛	県教育委員会文化財課主査
		〃	松本 安紀彦	(公財)高知県文化財団
	調査第三班	調査第三班長	坂本 憲昭	〃
		専門調査員	小山 求	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	茂松 清志	〃
		調 査 員	菊池 直樹	(公財)高知県文化財団
	調査第四班	調査第四班長	吉成 承三	〃
		専門調査員	武森 清幸	県教育委員会文化財課主任社会教育主事

### 3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地： 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積： 4,203㎡

建物構造： 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫： 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積： 2,073.93㎡

(本館：615.58㎡ 北館：259.20㎡ 南館：574.11㎡ 収蔵庫：619.40㎡ プロパン庫：5.64㎡)

延床面積： 4,136.16㎡

(本館：1,038.68㎡ 北館：518.40㎡ 南館：1,045.92㎡ 収蔵庫：1,527.52㎡ プロパン庫：5.64㎡)

事業費： 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

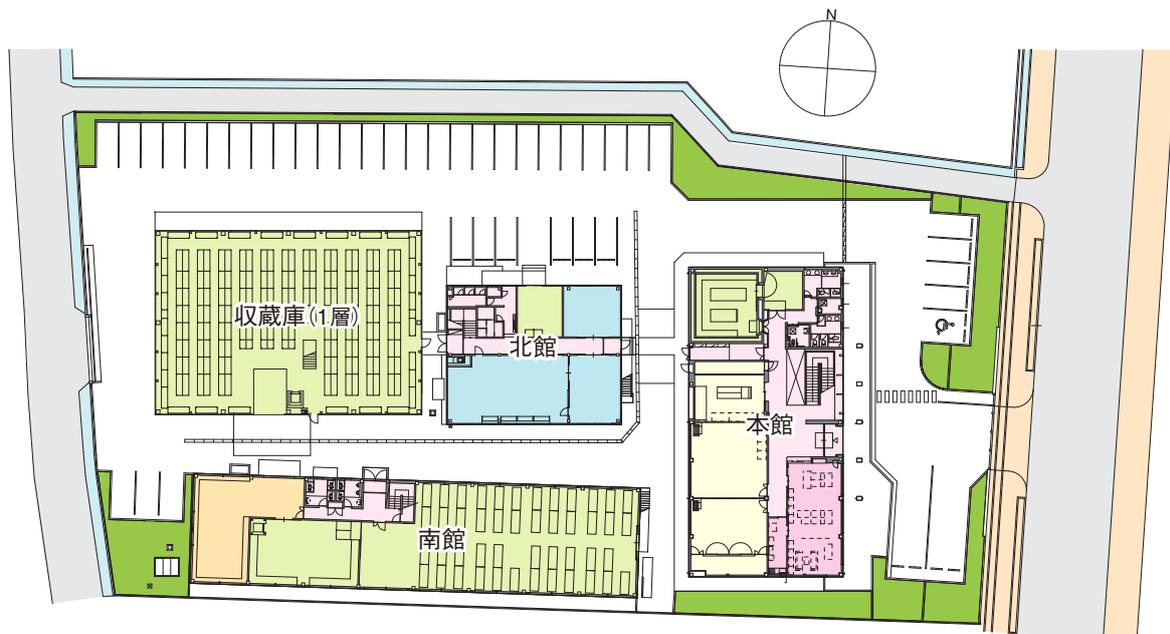


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

#### 4. 利用方法等について

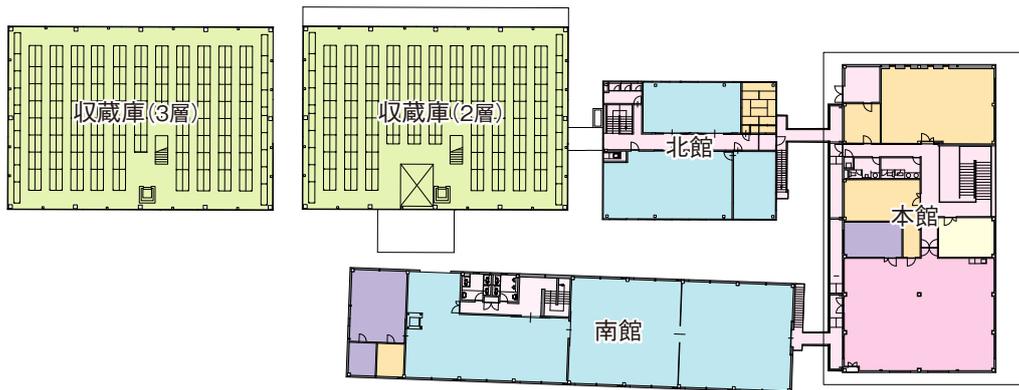


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

#### 4. 利用方法等について

##### (1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

##### (2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

##### (3) 休館日

土・日曜日、祝祭日、12月29日～1月3日

(巡回展の期間は土・日曜日、祝祭日も開館、企画展2の期間は土曜日と公開講座等開催日は開館)

##### (4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

WebDB.....<http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

### Ⅲ 年間事業の概要

#### 1. 発掘調査事業

平成24年度に受託した件数は3件で、受託費は415,254,000円であった。昨年度より40,719,000円少なく、対前年度比は9%の減少となった。昨年度に比べ受託件数で3件、調査面積で8,010㎡減少した(表4、図5)。調査面積に比べ受託件数が少ないのは、国土交通省関係の事業である高知南国道路(3遺跡)、南国安芸道路(4遺跡)、高知西バイパス(7遺跡)の所管がいずれも土佐国道事務所であったため1件の契約となったことによる。

経費の内訳は、国関係が347,281,200円(84%)、県関係が67,972,800円(16%)で、昨年度に比べ県関係が6ポイント増加した。これは国関係の受託経費が発掘調査面積の減少により61,938,450円減少した一方で、県関係の受託経費が弘人屋敷跡の発掘調査などで21,219,450円増加したことによる。

今後の発掘調査事業は、平成25年度に田村北遺跡の残りの本調査、新図書館建設に伴う追手筋遺跡の発掘調査及び史跡高知城跡追手門東北矢狭間塀石垣解体調査が予定されている以外は未定で、平成26年度は現在のところ整理作業以外は予定されていない。

国関係で唯一受託した土佐国道事務所関係の高知南国道路外(高知南国道路・南国安芸道路・高知西バイパス)事業では高知南国道路の田村北遺跡と高知西バイパスの天神溝田遺跡、奥名遺跡の3遺跡で発掘調査を実施した以外はいずれも整理作業のみであった。

なお、高知南国道路外事業では平成15年度から始まった高知南国道路と南国安芸道路、平成19年度から着手した高知西バイパスがあ

表4 発掘調査推移表

年 度	受託件数	受託面積
平成3年度	16件	25,910㎡
平成4年度	11件	14,663㎡
平成5年度	16件	17,010㎡
平成6年度	10件	28,233㎡
平成7年度	14件	28,856㎡
平成8年度	20件	90,546㎡
平成9年度	14件	93,675㎡
平成10年度	20件	111,902㎡
平成11年度	23件	41,320㎡
平成12年度	6件	27,314㎡
平成13年度	31件	21,853㎡
平成14年度	28件	10,488㎡
平成15年度	17件	6,052㎡
平成16年度	16件	34,285㎡
平成17年度	23件	58,084㎡
平成18年度	9件	38,119㎡
平成19年度	11件	41,662㎡
平成20年度	11件	53,792㎡
平成21年度	11件	34,500㎡
平成22年度	5件	29,831㎡
平成23年度	6件	42,508㎡
平成24年度	3件	34,498㎡
合 計	321件	885,101㎡

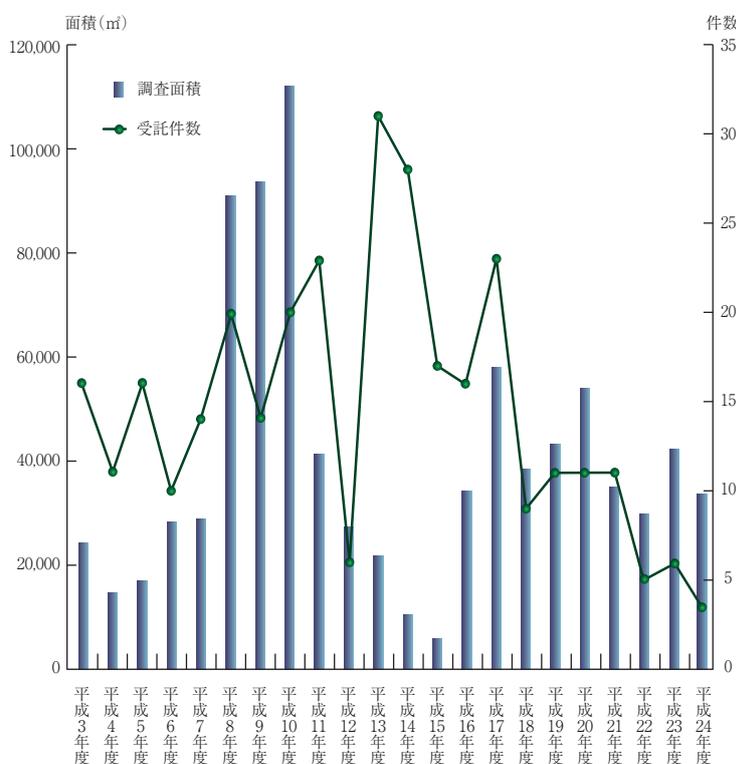


図5 受託発掘調査事業推移グラフ

1. 発掘調査事業

り、高知南国道路では調査対象となった高知南IC(仮称)から高知空港IC(仮称)までの区間で、南国市田村北遺跡の発掘調査が最後となる。整理期間は平成26年度末までを予定している。

南国安芸道路では当面の発掘調査が終了し、平成27年度までの期間で東野土居遺跡などの整理作業を実施する予定である。今後、香南のいちICから高知空港IC間の3.5kmが残っているが、試掘・確認調査はまだ実施されておらず、発掘調査については未定である。

一方、高知西バイパスは、いの町枝川ICから鎌田IC間が調査対象で、平成24年度に実施した天神溝田遺跡と奥名遺跡の調査で当面の調査を終了した。平成25年度からはバーガ森北斜面遺跡など

表5 平成24年度受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	田村北遺跡	12-1NTK	南国市田村	弥生 ～ 近世	集落跡	27,700 m <sup>2</sup>	4/6 ～ 2/28	国交省	道路	県教委
2	天神溝田遺跡	12-2ITM	吾川郡いの町字天神	中世 ～ 近世	集落跡	220 m <sup>2</sup>	4/24 ～ 5/28	国交省	道路	県教委
3	奥名遺跡	12-3IO	吾川郡いの町字奥名	古代 ～ 近現代	集落跡	1,400 m <sup>2</sup>	5/24 ～ 8/10	国交省	道路	県教委
4	弘人屋敷跡	12-4KY	高知市追手筋2丁目・ 帯屋町2丁目	古代 ～ 近代	屋敷跡	1,726 m <sup>2</sup> (5,178 m <sup>2</sup> )	5/21 ～ 1/31	高知県	建物	高知県
合 計						31,046 m <sup>2</sup> (34,498 m <sup>2</sup> )				

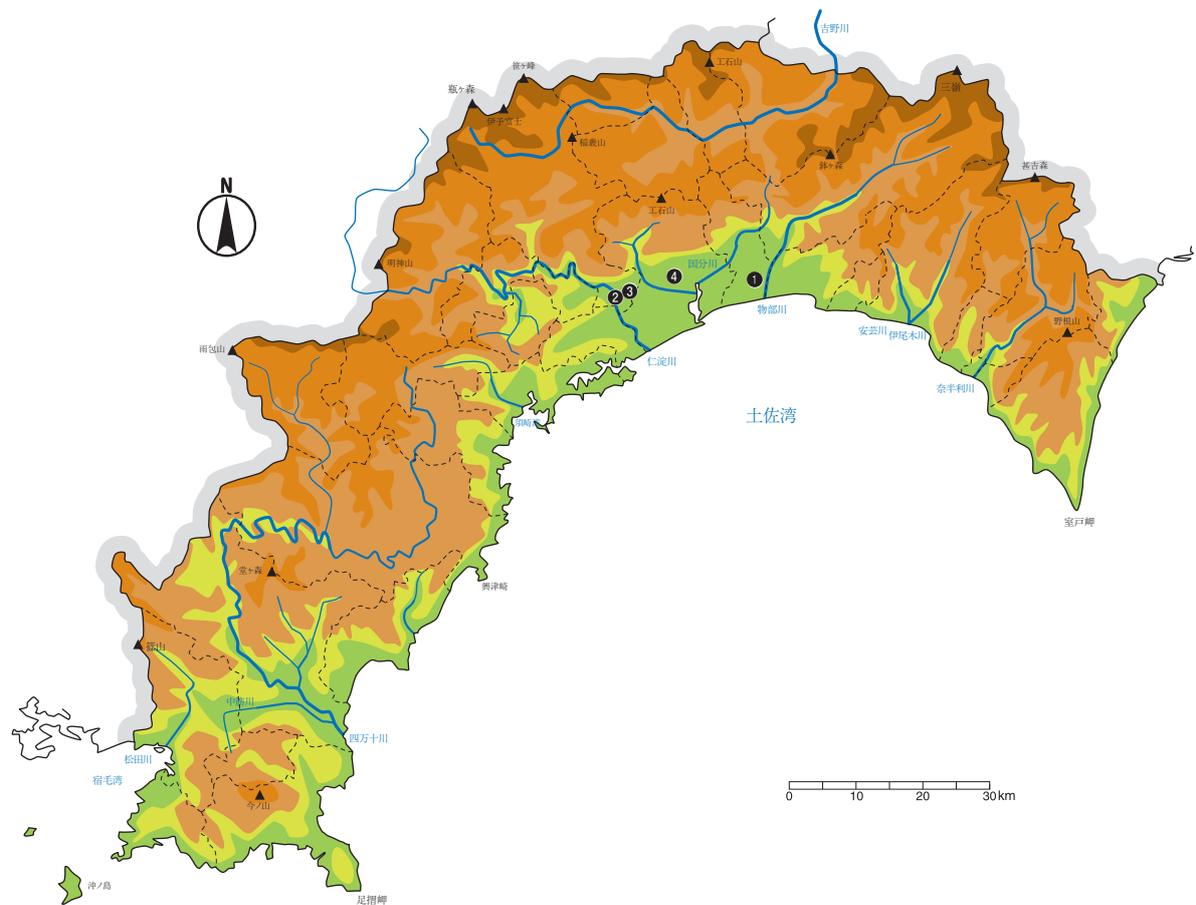


図6 平成24年度受託事業発掘調査位置図(番号は受託発掘調査事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

の整理作業を平成27年度まで行う予定である。

県関係では、土木関係と新資料館建設関係の2件があった。土木関係は高知県中央東土木事務所関連の事業で、平成19年度から着手し、平成21年度までの3ヵ年間発掘調査を実施した祈年遺跡の整理作業を引き続き行い4分冊目の報告書を刊行して整理作業を終了した。

新資料館建設関係は文化生活部の事業で、弘人屋敷跡の発掘調査事業を平成23年度から平成25年度までの3ヵ年で受託しており、平成24年度は残りの部分の発掘調査を実施し、平成25年度に整理作業を予定している。

埋蔵文化財センターの体制(図2、表3)は、前年度より1名減の正職員23名(嘱託職員を含めると26名)であった。内訳は考古専門職員が15名(県派遣7名、財団職員5名、嘱託職員3名)、県派遣の事務職員が3名、派遣教員が8名である。組織構成は変わらず所長、次長の下に総務課と調査課を置き、総務課は総務課長1名、主任1名、契約職員2名、調査課は調査課長(企画調整班長を兼務)の下に、普及教育事業等を行う企画調整班、発掘調査事業を行う調査第一班から調査第四班を配置した。調査課の人員内訳は調査課長兼企画調整班長1名、調査班長4名、調査員17名(専門調査員7名、主任調査員4名、調査員6名)、契約職員3名であり、この内実質的に発掘調査・整理作業を担当するのは考古専門職員11名、派遣教員5名である。

調査課の業務分担は、企画調整班が物品(県有物)等の貸出やホームページとWeb公開データベースの管理などの情報公開、企画展等事業、公開講座等事業、出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務、調査第一班が南国芸芸道路関係・県関係(県土木事務所・文化生活部)、調査第二班と調査第三班が高知南国道路関係、調査第四班が高知西バイパスに関する事業であった。

### (1) 受託事業

平成24年度の受託事業件数は3件<sup>(1)</sup>で、発掘調査と整理作業の両方が2件<sup>(2)</sup>、整理作業のみが1件<sup>(3)</sup>であった。これを遺跡数で見ると、発掘調査が4遺跡(表5・図6)<sup>(4)</sup>、整理作業が12遺跡<sup>(5)</sup>(内報告書を刊

表6 平成24年度受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	田村西遺跡	10-4NTN	南国市大涌乙	弥生 ～ 近世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
2	坪井遺跡	06-12YT	香南市夜須町坪井	弥生 ～ 近世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
3	徳王子大崎遺跡	08-9KO 10-9KO	香南市香我美町徳王子	弥生 ～ 近代	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
4	城ヶ谷山遺跡	07-3IS	吾川郡いの町鎌田	古代 ・ 中世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
5	貢山城跡	08-7IM	吾川郡いの町鎌田	中世 ・ 近世	城館跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
6	鎌田遺跡	08-11IK	吾川郡いの町鎌田	古代 ・ 中世	集落跡	H24.4.6 ～ H25.3.31	国交省	道路	県教委
7	祈年遺跡	09-5NS	南国市東崎他	弥生 ～ 古代	集落跡	H24.4.1 ～ H24.9.30	高知県	道路	高知県

## 1. 発掘調査事業

行した遺跡は7遺跡<sup>(6)</sup>の16遺跡となる。

調査面積は前述のとおり昨年度より 8,010 m<sup>2</sup>少なく、対前年度比は約 19%の減少となった。田村北遺跡の発掘調査面積は 27,700 m<sup>2</sup>と広がったものの、発掘調査件数が減ったことが調査面積の減少に影響している。

受託先は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託1件、高知県からの受託事業には中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業に係る国道195号活力創出基盤整備総合交付金埋蔵文化財資料整理委託業務1件と文化生活部の新資料館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託1件の計3件があった。

次に、各事業について具体的にみる。まず、高知県教育委員会から受託した国関係の内、高知南国道路外として契約し、平成16年度から継続されている東部自動車道建設(高知南国道路と南国安芸道路)と平成19年度から着手した高知西バイパスに伴う発掘調査・整理作業がある。高知南国道路では、田村北遺跡の発掘調査を行うと共に田村西遺跡の報告書作成を中心とした整理作業を行った。田村北遺跡については本格的に発掘調査に着手し、27,700 m<sup>2</sup>の調査を実施した。一部用地の関係で平成25年度に650 m<sup>2</sup>の調査を残している。南国安芸道路では当面の工事区間である香南のいちICから芸西西IC間の発掘調査が終了し、整理作業に移った。東野土居遺跡を中心に整理作業を実施し、坪井遺跡と徳王子大崎遺跡の報告書を刊行した。今後、平成25年度に徳王子広本遺跡と東野土居遺跡Ⅰ、平成26年度に東野土居遺跡Ⅱ、平成27年度に東野土居遺跡Ⅲ・Ⅳの報告書を刊行予定である。

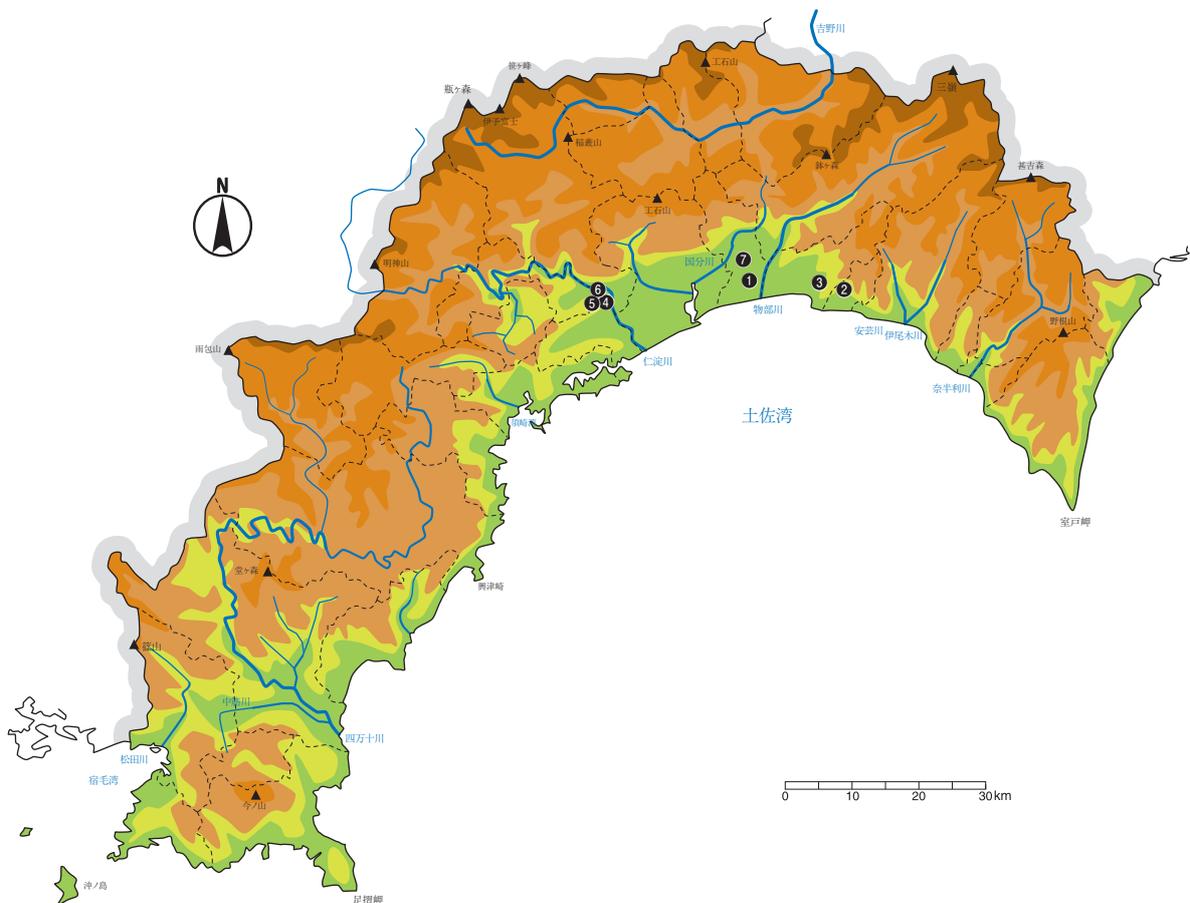


図7 平成24年度受託事業整理作業位置図(番号は受託発掘調査事業(整理作業/報告書刊行分)一覧表の番号と一致)

高知西バイパスでは天神溝田遺跡の残りの調査と奥名遺跡の発掘調査及び城ヶ谷山遺跡、鎌田遺跡、貢山城跡の報告書作成を行った。平成25年度以降は整理作業を行い、平成25年度に天神溝田遺跡、平成26年度にバーガ森北斜面遺跡、平成27年度に西浦遺跡と奥名遺跡の報告書を刊行予定である。

県関係では、中央東土木事務所関係の祈年遺跡の整理作業を昨年度に引き続き行い、最後の4分冊目の報告書を刊行し、終了した。また、文化生活部関係の弘人屋敷跡の発掘調査を引き続き実施し、整理作業に移り、平成25年度に報告書を刊行して終了予定である。

以上、平成24年度の受託事業の概要を記したが、発掘調査では田村北遺跡と弘人屋敷跡、整理作業では東野土居遺跡が中心となった。刊行した報告書及び年報については平成24年11月に関係機関に発送した。

## (2) 発掘調査報告書

平成24年度は5冊(第131～135集)の報告書(表7)を刊行した。内訳は国関係が4冊、県関係が1冊であった。印刷冊数はいずれも300冊となったことと頁数の少ない報告書が多かったことにより、印刷経費は一昨年度の約1/3の3,679,515円であった。

事業別にみると、国関係では高知南国道路の『田村西遺跡』、南国安芸道路の『坪井遺跡』、『徳王子大崎遺跡』、高知西バイパスの『城ヶ谷山遺跡・鎌田遺跡・貢山城跡』の4冊を刊行した。『田村西遺跡』は田村遺跡群の北西に位置し、田村遺跡群に後続する集落跡の調査成果をまとめたもので、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃の竪穴建物跡6軒、溝跡等が検出されている。竪穴建物跡は、平面が多角形や隅丸方形のものがみられ、溝跡からは在地の弥生土器と共に庄内式土器が出土している。また、条里地割との関係が考慮される古代から中世にかけての溝跡も確認されている。『坪井遺跡』は平成18年度に調査した同遺跡の報告で、弥生時代の自然流路、古墳時代の竪穴建物跡4軒、古代の官衙関連とみられる掘立柱建物跡4棟などが確認され、緑釉陶器や円面硯などが出土している。『徳王子大崎遺跡』は平成20年度と平成22年度に調査した同遺跡の調査成果をまとめたもので、弥生時代前期の土坑2基、弥生時代後期後半から終末にかけての竪穴建物跡6軒、中世の屋敷跡が確認されている。『城ヶ谷山遺跡・鎌田遺跡・貢山城跡』は仁淀川右岸に隣接して所在する3遺跡をまとめて報告したもので、城ヶ谷山遺跡と鎌田遺跡は古代から中世にかけての集落跡、貢山城跡は中世の山城

表7 平成24年度埋蔵文化財センター刊行報告書一覧

シリーズ名	書名	遺跡所在地	編集・執筆者
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第131集	祈年遺跡Ⅳ 国道195号道路改築に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書 第4分冊 Ⅷ区	南国市東崎他	前田光雄, 前田早苗, 白石純, パリノ・サー ヴェイ株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第132集	坪井遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ)	香南市夜須町坪井	下村裕, パリノ・サー ヴェイ株式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第133集	徳王子大崎遺跡 南国安芸道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅴ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ)	香南市香我美町徳王子	下村裕, 島内洋二, パ リノ・サーヴェイ株 式会社
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第134集	城ヶ谷山遺跡, 鎌田遺跡, 貢山城跡 (高知西バイパス建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅰ)	吾川郡いの町鎌田	吉成承三
高知県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書第135集	田村西遺跡 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅴ (高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ)	南国市大埴乙	久家隆芳, 白石純, パ リノ・サーヴェイ株 式会社

## 2. 指定管理事業

で、堀切1条が確認されている。

次に県関係では国道195号道路改築に伴う祈年遺跡の調査成果をまとめた『祈年遺跡Ⅳ』を刊行した。4分冊の最終冊で、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の竪穴建物跡32軒、古墳時代後期の竪穴建物跡20軒、古墳時代から古代にかけての掘立柱建物跡19棟などが検出されたⅧ区についての報告である。

以上が、平成24年度に刊行した報告書の概要である。発掘調査を優先していた遺跡については平成25年度以降も順次報告書を刊行していく計画であり、調査中の遺跡も含め平成27年度末までにはすべての報告書を刊行する予定となっている。

### 註

- (1) 国関係事業については国土交通省四国地方整備局と県教育委員会との委託契約を受けて、県教育委員会と委託契約を行っている。平成24年度国関係で契約したのは土佐国道事務所関係の1件で、高知南国道路外として高知南国道路(田村北遺跡の発掘調査、関遺跡・田村西遺跡の整理作業)、南国安芸道路(東野土居遺跡・徳王子広本遺跡・坪井遺跡・徳王子大崎遺跡の整理作業)、高知西バイパス(天神溝田遺跡・奥名遺跡の発掘調査、貢山城跡、鎌田遺跡、城ヶ谷山遺跡、バーガ森北斜面遺跡、西浦遺跡の整理作業)の発掘調査と整理作業があった。県関係は、土木関係1件(祈年遺跡)と新資料館建設事業1件(文化生活部)の2件で、平成24年度に発掘調査関係で受託した件数の合計は3件であった。
- (2) 高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査事業と新資料館整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務の2件
- (3) 国道195号活力創出基盤整備総合交付金埋蔵文化財資料整理委託業務(道交国(改築)第109-204-12号)の1件
- (4) 南国市田村北遺跡、いの町天神溝田遺跡・奥名遺跡、高知市弘人屋敷跡の4遺跡
- (5) 南国市関遺跡・田村西遺跡・祈年遺跡、香南市東野土居遺跡・坪井遺跡・徳王子大崎遺跡、いの町城ヶ谷山遺跡・貢山城跡・鎌田遺跡・バーガ森北斜面遺跡・西浦遺跡、高知市弘人屋敷跡の12遺跡
- (6) 南国市田村西遺跡・祈年遺跡、香南市坪井遺跡・徳王子大崎遺跡、いの町城ヶ谷山遺跡・鎌田遺跡・貢山遺跡の7遺跡

## 2. 指定管理事業

平成24年度は、高知県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務を行う指定管理者として指定された平成22年4月1日から平成25年3月31日までの3年間の最終年度であった。年間4回の展示会、83本の公開講座、71校への出前考古学教室、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開など普及教育事業に取り組んだ。

埋蔵文化財センターの入館者は、展示・施設見学者と公開講座の参加者が中心で、年間10件程度(平成24年度も10件)の出土文化財等の調査のための来館者や体験学習に訪れる小中学生もみられた。平成24年度の入館者総数は2,854人で、過年度の増加率と平成23年度の入館者総数3,058人を基に設定した平成24年度の入館者数目標3,200人を達成することができなかった。対前年度比は7%減となった。目標を達成できなかった要因の一つは、親子考古学教室の参加者の減少が挙げられる。

一方、今後埋蔵文化財センターへの入館者を増やしていくには、公開展示、公開講座の参加者を確保した上で、小中学校の団体見学を招



写真1 年間行事カレンダー

致することが大きな鍵を握っているものと思われる。出前考古学教室などを利用して施設を紹介すると共に埋蔵文化財センターに在籍したことのある教員に呼びかける等を行っていききたい。

なお、入館者に占める比率はやや下がったものの目玉事業である親子考古学教室が平成24年度も入館者数の三割近くを占めた(図8)。

会期中に親子考古学教室が開催される巡回展は、休館日がないこともあり、他の展示会の2~4倍の入館者となった。また、企画展1と企画展2も前年度より増加しており、この期間団体見学が比較的多かったことも関係していると思われる。

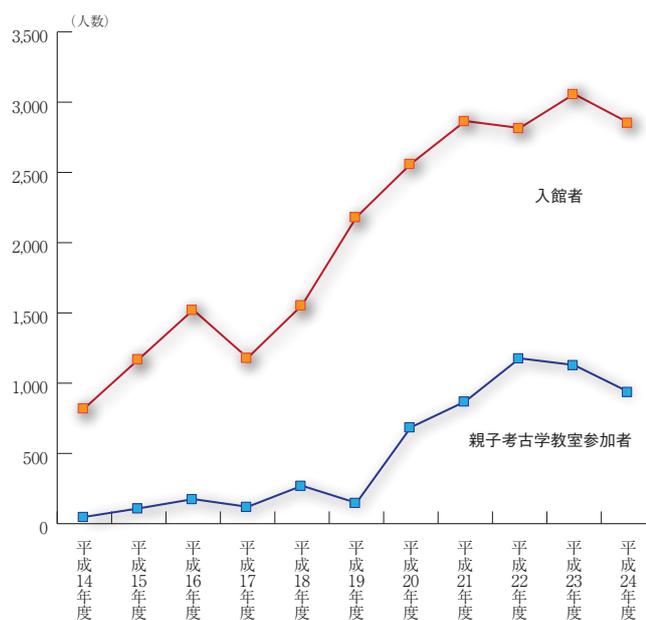


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

今後、入館者数を恒常的に増やしていくには、分かりやすい展示を心掛けることと前述のように小学校など団体見学の招致が重要なポイントとなってくると考える。

次に、月別に入館者数をみてみると、例年どおり夏休み期間である8月が圧倒的に多く、入館者の少ない月(2月:84人)の約10倍、月平均(約238人)の約4倍であった。また、県外からの入館者数は71人で、入館者総数の約2%に当り、昨年度より178人少なかった。減少した要因は、県外からの団体見学がなかったことと研究会等が当センターで開催されなかったことによるとみられる。

前述のとおり、親子考古学教室の一定回数開催と団体見学の招致が入館者の増加に直結しているが、それ以外にボランティアなどの支援者の確保も重要であろう。支援者を増やすことでより

表8 入館者推移表と平成24年度の入館者

年度	合計	内訳(人数)								入館者内訳		
		常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	子供	大人	展示報告・解説
H13年度	811	811	-	-	-	-	-	-	-	487	324	-
H14年度	821	177	-	644	-	-	-	-	-	493	328	-
H15年度	1,171	468	-	703	-	-	-	-	-	703	468	20
H16年度	1,523	402	802	319	-	-	-	-	-	913	610	-
H17年度	1,318	431	542	345	-	-	-	-	-	787	531	17
H18年度	1,555	504	449	-	-	-	-	482	120	582	973	47
H19年度	2,182	392	809	501	-	-	333	-	147	348	1,834	87
H20年度	2,561	-	1,224	-	451	328	253	-	305	740	1,821	147
H21年度	2,866	-	1,417	-	508	388	363	-	190	905	1,961	170
H22年度	2,816	-	1,558	-	347	331	383	-	197	1,019	1,797	104
H23年度	3,058	-	1,521	-	490	466	369	-	212	1,035	2,023	147
H24年度	2,854	-	1,247	-	557	595	338	-	117	1,074	1,780	110
合計	23,536	3,185	9,569	2,512	2,353	2,108	2,039	482	1,288	9,086	14,450	849
平均	1,961	455	1,063	502	471	422	340	482	184	757	1,204	94

## 2. 指定管理事業

ニーズにあった講座も見出せると考える。さらに、文化庁の補助金を利用した体験学習器具等の配備と講座の充実が参加者の増員に繋がるものと思われ、今後県にも積極的に働きかけたい。

また、インターネットミュージアム主催の「ミュージアムキャラクターアワード2012」に参加し、当センターのマスクットである文蔵くんとまいちゃん(図9)は491票を獲得し、全国51館のマスクット中、9位となった。

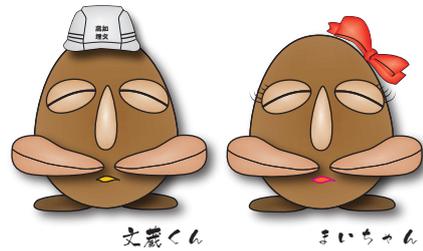


図9 マスコット

### (1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場として、発掘調査の成果の公開活用のため昨年度と同じく年間を通じて4本の展示会を行った。入館者は結果的に昨年度(3,058人)より204人少ない2,854人で、対前年度比は7%減となり、当初の入館者目標である3,200人を達成することはできなかった。

なお、各展示会ではきめ細かい展示サービスとして、展示室入口前に展示解説の案内板を設け、希望者には随時展示解説を行った。

また、平成24年度に初めてテレビ高知から「じゃらん!<sup>2</sup> モーニング」の「30秒で伝えタイム」の出演依頼を頂き、9月1日(土)に巡回展、10月20日(土)に企画展2、2月2日(土)に特別展の宣伝をテレビを通じて行うことができた。

各展示会については、以下のとおりである。

#### ① 企画展1

「考古資料からみた高知県の歴史」と題した企画展で、旧石器時代から江戸時代までの遺物を展示することで、高知県の歴史を概観できるように心掛け、観覧の便を供するために展示解説シートを作成した。会期は4月18日(水)から6月23日(土)までの51日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等の開催日は開館)で、5月12日(土)には「企画展1」報告会、6月9日(土)には展示品解説を開催し、報告会には19人、展示品解説には3人の参加者があった。入館者数は557人で、対前年度比は14%増であった。

#### ② 四国地区埋蔵文化財センター巡回展 第4回「続・発掘へんろ」

四国四県の埋蔵文化財センターの共同の巡回展で、平成21年度から6ヵ年計画で「続・発掘へんろ」を開催しており、本年度が第4回目となる。本年度は「四国の古代」をテーマに、四国の遺跡から出土した出土品を「寺院/瓦」、

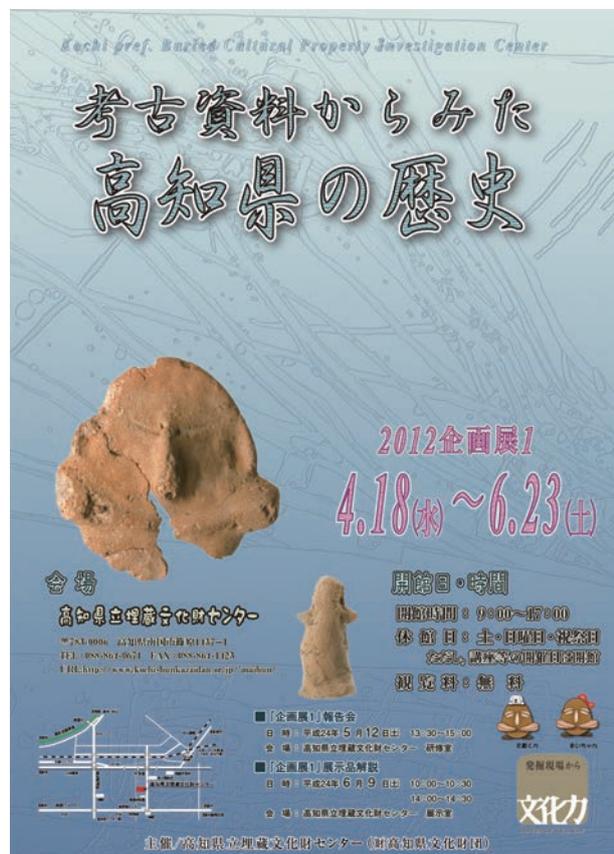


写真2 企画展1ポスター



写真3 巡回展報告会

「官衙」、「文字」、「祭祀」、「生産・生業」、「外来系土器」の6部門に分けて展示した。会期は7月2日(月)から9月8日(土)までの69日間(休館日なし)で、7月7日(土)には「巡回展」報告会、8月4日(土)には展示品解説を開催し、報告会には21人、展示品解説には9人の参加者があった。入館者数は1,247人で、対前年度比は18%減であった。後述の親子考古学教室の参加者の減少が入館者の減少に影響したものと考えられる。

③ 企画展2

平成19年度から実施している道路開発で発掘調査を行った遺跡の企画展で、本年度は「道路開発であらわれた遺跡展Ⅵ」- 南国安芸道路建設に伴う発掘成果から - を開催した。展示は報告書が刊行されている花宴遺跡を中心に徳王子前島遺跡、口楨ヶ谷遺跡などの遺跡について展示した。会期は9月25日(火)から12月1日(土)までの56日間(休館日の日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等の開催日は開館)で、10月6日(土)には「企画展2」報告会、11月10日(土)には展示品解説を開催し、報告会には17人、展示品解説には9人の参加者があった。展示内容が分かりやすいなどアンケートの評判が良く、会期中の入館者数は595人で、対前年比は28%増であった。

④ 特別展

本年度は「古代の祈り」をテーマとした特別展を開催し、縄文時代から中世にかけての祈りに関する遺物を中心に展示した。会期は12月17日(月)から平成25年3月16日(土)までの63日間(休館日の土・日曜日、祝祭日は除く、ただし、公開講座等の開催日は開館)で、1月5日(土)には「特別展」報告会、3月2日(土)には展示品解説を開催し、報告会には16人、展示品解説にも16人の参加があった。入館者数は昨年度より31人少ない338人で、対前年度比は8%減であった。



写真6 特別展ポスター

また、関連企画として奈良県立橿原考古学研究所附属博物館今尾文昭学芸課長を講師に



写真4 巡回展ポスター

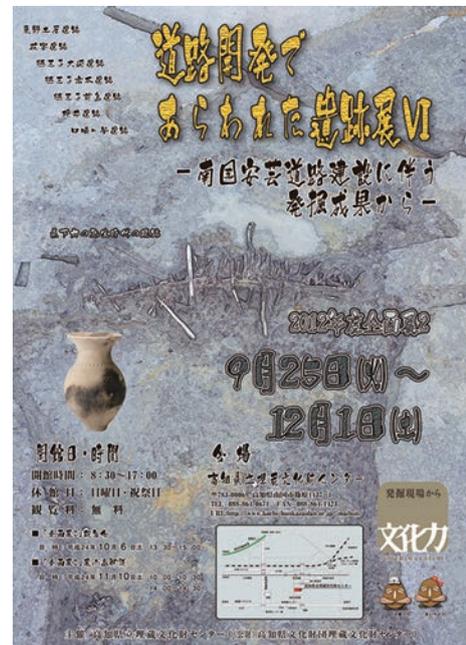


写真5 企画展2ポスター



写真7 特別展記念講演会

2. 指定管理事業

迎え「カミの去来－古墳時代の事例から－」と題した一般向けの記念講演会を2月3日(日)にかるぽーと小ホールで開催し、87人の参加があった。昨年度の約2倍の参加者を得た。

(2) 公開講座等

講座(表9・10・13)として考古学講座4回、発掘調査報告会4回、古代ものづくり体験教室20回、親子考古学教室40回、授業にいかせる考古学教室1回、発掘現場見学会1回を開催し1,276人の参加があり、さらに各展示会に伴う展示報告会4回と展示品解説8回(午前・午後)に110人、そして、特別展記念講演会1回に87人の参加があり、合計83回の講座に1,473人の参加者があった。昨年度より169人少なく、対前年度比は10%減であった。親子考古学教室の参加者数の減少がそのまま影響している。

各講座の平均参加者数は、考古学講座が約17人(募集定員約40人)、発掘調査報告会が約20人(募集定員約40人)、親子考古学教室が約23人(募集定員約30人)、古代ものづくり体験教室が約8人(募集定員約10人)、授業にいかせる考古学教室15人(募集定員約10人)、発掘現場見学会19人(募集定員20人程度)、展示報告会約18人(募集定員約40人)、展示品解説約5人(募集定員約20人)であり、授業にいかせる考古学教室以外の講座で募集定員を満たすものはなかった。その中で、親子考古学教室や古代ものづくり体験教室の開催日によっては募集定員に達し、お断りしたこともあった。概して申込みが多かった講座はいずれも体験型の講座であり、座学の講座は参加者の伸び悩みがみられる。

次に、参加者の年齢・性別についてみると、昨年度同様体験型の講座である古代ものづくり体験教室では、講座内容によってやや異なる傾向が窺え、ガラス玉づくりでは30歳代から40歳代の女性の方が圧倒的に多く、考古学講座や発掘調査報告会など座学を中心とする講座では、女性の方が多かった講座もみられたものの、概して男性の割合が高く、中心は50歳代から70歳代で、全体の半数は50・60歳代の方であった。

表9 公開講座参加者数

年度	合計	内訳					
		考古学講座	発掘調査報告会	授業にいかせる考古学教室	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会
平成13年度	－	－	－	－	－	－	－
平成14年度	48人	－	－	－	48人	－	－
平成15年度	109人	－	－	－	109人	－	－
平成16年度	175人	－	－	－	175人	－	－
平成17年度	120人	－	－	－	120人	－	－
平成18年度	431人	136人(54)	－	－	270人(125)	－	25人
平成19年度	444人	110人(75)	138人	9人	146人	35人	6人
平成20年度	1,122人	83人(47)	173人	10人	686人	148人	22人
平成21年度	1,187人	99人(29)	106人	6人	870人	89人	17人
平成22年度	1,499人	80人(21)	137人	7人	1,177人	67人	31人
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人(120)	124人	11人
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人(178)	157人	19人
合計	7,864人	664人(226)	731人	50人	5,668人(423)	620人	131人
平均	715人	95人(45)	122人	8人	515人(141)	103人	19人

※( )内人数はセンター以外(四万十市・宿毛市・安芸市など)での参加人数

このように、体験型の講座では、女性が中心でかつ比較的若い方の参加が目立った。よって、体験型の講座は女性の支持層を増やすのに有効な事業であることが示唆される。座学を中心とする講座は、実年の男性の参加者が中心であり、考古学に興味を持ち、より深く歴史を学びたい方といえ、講座内容も考古学の事象ばかりにとらわれず、歴史と絡めつつより一層興味を持って頂ける内容にしていくことが重要と思われる。また、調査員も自分の研究成果を発表する場と捉え、積極的に参加する必要があると考える。

なお、938人の参加のあった親子考古学教室では大人(20歳代から30歳代)が367人、子供(大半が小学生)が571人で、親1人に対して子供1~2人(平均1.6人)の参加で、少子化の影響がみられた。この親子考古学教室は県下小学生全員にチラシを配付して以来、開催日によっては定員以上の応募がある最も人気の講座であるため開催回数を40回(30人/回)とし、ボランティアの協力(延べ15人)を得て実施した。今後も、積極的にボランティアの協力を得ることが不可欠である。募集は県内の大学にポスターを掲示して頂く一方、前年度の大学の講義(考古学と博物館学Ⅱ)の際、案内を行った。しかし、昨今の大学の夏休みの開始が8月上旬からとなったこともあり、ボランティアを集めることがなかなか難しくなっている。

高知県立埋蔵文化財センターの指定運営代行業務を行って以来、定期的に公開講座を開催すると共に毎年回数(平成20年度:29回,平成21年度:29回,平成22年度:60回,平成23年度79回,平成24年度83回)を増やしてきた。その結果、公開講座等への参加者は平成20年度に飛躍的に伸びたものの、平成22年度以降は伸び悩んでおり、さらに地道な努力を行っていくことが、考古学の底辺を広げるには不可欠なことであると考えられる。

なお、事業案内を年間行事カレンダーやホームページで行う一方、葉書で毎月開催案内を希望者



写真8 掘りゆうぜよ高知2012

表10 平成24年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者		
企画展1(4月18日~6月23日)	開館51日		古代ものづくり体験教室		考古学講座			
「企画展1」報告会	5月12日(土)	19人	1	5月26日(土)	12人	1	5月19日(土)	23人
展示品解説	6月9日(土)	3人	2	6月23日(土)	10人	2	7月14日(土)	13人
巡回展(7月2日~9月8日)	開館69日		3	10月13日(土)	18人	3	11月17日(土)	16人
「巡回展」報告会	7月7日(土)	21人	4	11月19日(月)	21人	4	1月26日(土)	17人
展示品解説	8月4日(土)	9人	5	11月24日(土)	12人		発掘調査報告会	
企画展2(9月25日~12月1日)	開館56日		6	12月8日(土)	20人	1	6月16日(土)	10人
「企画展2」報告会	10月6日(土)	17人	7	1月19日(土)	10人	2	9月8日(土)	29人
展示品解説	11月10日(土)	9人	8	1月21日(月)	19人	3	10月20日(土)	26人
特別展(12月17日~3月16日)	開館63日		9	2月16日(土)	20人	4	12月1日(土)	13人
「特別展」報告会	1月5日(土)	16人	10	3月16日(土)	15人		授業にいかせる考古学教室	
記念講演会	2月3日(日)	87人		発掘現場見学会			8月7日(火)	15人
展示品解説	3月2日(土)	16人		10月24日(水)	19人			

2. 指定管理事業

に送付し、さらに報道機関への告知放送の依頼を行うなど周知を図った。近年の博物館等による公開講座等の増加によって、開催日が重なり、後日資料のみを求められるケースもみられた。

これ以外に高知県文化財団主催の県立ミュージアム出張ワークショップ@イオン高知に参加し、「どきどき土器パズル登場」と銘打った企画を松山市考古館の協力を得て開催した。106人の方が土器パズルに挑戦して頂き、イオン高知からも好評で、平成25年度も開催のオファーがあった。

① 考古学講座

平成24年度は若手の調査員4名の研究成果を発表することとし、年4回午後1時30分から3時30分までの2時間の講座として開催した。本年度は4回(表11)とも埋蔵文化財センターで実施した。

表11 平成24年度考古学講座

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成24年5月19日)	弥生時代の青銅祭祀	宮里 修
第2回(平成24年7月14日)	玉づくりの技術と系譜	米田克彦
第3回(平成24年11月17日)	古墳時代の祭祀	山崎孝盛
第4回(平成25年1月26日)	中世の城下町	久家隆芳

参加総数は69人で対前年度比は21%減であった。参加者が20人を切る講座が3講座もあり、内容の検討が必要で、平成25年度からはより多くの方が参加しやすいような講座として派遣教員による「考古学からわかる歴史教室」と銘打った入門講座を予定している。

② 発掘調査報告会

埋蔵文化財センターが実施した近年の発掘調査の内、注目された4遺跡(表12)の発掘調査を取り上げ、プロジェクターを使用して平易に解説すると共に出土遺物も実見してもらい、遺跡についての理解をより一層深めて頂いた。午後1時30分から3時までの90分の講座で、年4回、埋蔵文化財センターで開催した。参加総数は78人で、21人減少し、対前年度比は21%減であった。

表12 平成24年度発掘調査報告会

開催日	講座内容	担当者
第1回(平成24年6月16日)	徳王子広本遺跡	下村 裕
第2回(平成24年9月8日)	東野土居遺跡	筒井三菜
第3回(平成24年10月20日)	田村北遺跡	久家隆芳
第4回(平成24年12月1日)	弘人屋敷跡	宮里 修

平成25年度は遺跡解説会と名称を変更し、報告書が刊行された遺跡を中心に紹介する講座を計画している。

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子による体験型講座である。県内の小学生全員に「掘りゆうぜよ高知 遺跡の館 夏休み企画」と銘打ったチラシを夏休み前に配付し、周知を図った。本年度は四万十市・宿毛市に加え新たに安芸市でも開催し、合計40回開催した。また、ボランティア延べ15人の協力も得た。

参加人員は938人(内訳大人367人、子供571人)で、募集定員は昨年度と同じ1,200人であり、対前年度比は17%減となったものの、埋蔵文化財センター以外での開催では募集定員一杯の参加者を得ており、公開講座中では参加者が最も多い講座である。



写真9 勾玉づくり

また、平成24年度は初めてマスコットや土器の缶バッ

チを制作し、希望した児童にプレゼントして、マスコット及び埋蔵文化財センターの周知を図った。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学に関心を持って頂き、埋蔵文化財センターとの連携を深めるため企画した講座で、夏休み期間を利用して1回(8月7日(火))実施した。内容は考古学概説や発掘調査現場体験(本年度は田村北遺跡)、火起こし、勾玉づくり体験で、天候に恵まれ、参加者には非常に好評であった。本年度は香美市の中学校の社会科部会の先生の参加があり、参加者数は15人と昨年度の5倍であった。

⑤ 古代ものづくり体験教室

親子考古学教室に次いで人気がある講座で、平成24年度は、新たに「土器づくり」を加え、さらに回数も16回から20回に増やし、参加の機会を増やした。

参加総数は昨年度に比べ33人増加の157人で、対前年度比は27%の増であった。

⑥ 発掘現場見学会

埋蔵文化財センターが実施している発掘調査中の現場を調査員が案内し、遺跡の概要を解説するもので、本年度は高知南国道路建設に伴って発掘調査を行っている田村北遺跡で10月24日(水)に開催し、昨年度より8人多い19人の参加があった。



写真10 土器づくり

表13 平成24年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
7月24日(火)	13人	15人	10人	22人	60人	8月13日(月)	12人	20人	13人	19人	64人
7月26日(木)	-	-	12人	21人	33人	8月14日(火)	10人	20人	6人	7人	43人
7月27日(金)	10人	18人	11人	17人	56人	8月16日(木)	9人	13人	6人	9人	37人
7月28日(土)	11人	22人	-	-	33人	8月18日(土)	15人	17人	8人	10人	50人
8月1日(水)	10人	16人	10人	20人	56人	8月19日(日)	13人	21人	11人	17人	62人
8月2日(木)	8人	11人	14人	18人	51人	8月21日(火)	9人	17人	4人	6人	36人
8月3日(金)	5人	7人	15人	18人	45人	8月22日(水)	10人	15人	7人	8人	40人
8月5日(日)	11人	20人	14人	19人	64人	8月24日(金)	2人	3人	8人	11人	24人
8月6日(月)	2人	3人	4人	5人	14人	8月25日(土)	7人	8人	3人	2人	20人
8月9日(木)	8人	19人	8人	15人	50人	8月26日(日)	10人	14人	6人	10人	40人
8月12日(日)	12人	19人	10人	19人	60人	計	97人	148人	72人	99人	416人
計	90人	150人	108人	174人	522人	合計	187人	298人	180人	273人	938人

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開事業として、インターネット上のホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレットなど新たな出版物を随時追加更新しており、インターネットを介して、最新のデータを閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料の公開活用を進めることができた。全国的にも利便性の



写真11 ホームページ

## 2. 指定管理事業

あるコンテンツである。

また、埋蔵文化財センターの活動記録として平成23年度の業務実施内容をまとめた『年報第21号』を発刊した。

### ① ホームページ

平成19年度にリニューアルし、引き続き同じテンプレートを平成24年度版に更新すると共により見やすいように修正した。広報普及や発掘調査状況等は随時更新して、情報提供を行った。アクセス数は1日20～30件であった。

(公財)高知県埋蔵文化財センター URL：<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/>

### ② Web公開データベース

平成24年度が平成16年度から始めたWeb公開データベース(埋蔵文化財情報管理システムとして遺跡情報管理(遺跡台帳でPDF化した報告書があるものはそれにリンク)、収蔵図書情報管理(図書台帳)、県内発掘調査情報管理(報告書抄録)のWeb公開)の最後となってしまった。年数の関係で故障した機器の修理ができず、残った機器で報告書PDFのみを公開した。レンタルサーバでの運用も検討し、予算計上したものの、最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ、平成25年度に新たなフォーマットで公開されることになった。一方、報告書PDFについては高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認され、引き続き公開できるようになり、タイムラグなしに提供されている。エンドユーザーに分かりやすいサイト構成で、他の同じようなサイトとは一味違うものである。

なお、報告書PDFは名前のとおり、PDF化した報告書等のデータを掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報や現地説明会資料を一般公開している。いずれも、随時更新しており、平成24年度は前述の5冊の報告書と年報第21号及び展示会のパンフレット(表14)などを新たに掲載した。

平成24年度：Web公開データベースURL：<http://pc2.sites-tosa-unet.ocn.ne.jp/>

平成25年度：Web公開データベースURL：[http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/pdf\\_sites/index.htm](http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/pdf_sites/index.htm)

表14 平成24年度Web公開した報告書等

掲載物	種類	掲載形式	データ量	分割数	年月日
祈年遺跡Ⅳ	発掘調査報告書	PDF	83.2MB	9分割	2012. 9 .30
坪井遺跡	〃	〃	20.3MB	2分割	2012. 12 .21
徳王子大崎遺跡	〃	〃	11.5MB	－	2013. 3 .15
城ヶ谷山遺跡・鎌田遺跡・貢山城跡	〃	〃	29.8MB	3分割	2013. 3 .12
田村西遺跡	〃	〃	25.9MB	3分割	2013. 3 .12
年報第21号(平成23年度実績)	年報	〃	5.1MB	－	2012. 10 .5
巡回展第4回「続・発掘へんろ」	パンフレット	〃	3.4MB	－	2012. 7 .2
企画展2	〃	〃	2.8MB	－	2012. 9 .25
特別展	〃	〃	3.9MB	－	2012. 12 .17

### ③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に則り、迅速かつ適切に管理と貸出を行い、交換図書として寄贈された報告書等も随時登録している。

なお、収蔵庫で管理している出土文化財についてはデータベース化し、埋蔵文化財センターのイ

ントラネットで検索できるシステムとしている。

平成24年度の物品(県有物)等の貸出は23件(表15)で、うち他施設等への貸出は13件、残りの10件は高知県立埋蔵文化財センター内での実見・実測であった。また、火起こし器セットなど物品の貸出は小中学校を中心に6件、写真掲載については出版会社や報道機関などから7件の許可申請があった。

なお、主な貸出先は愛知県陶磁資料館、高知大学、高知県立歴史民俗資料館、県内の公立学校、徳島市立考古資料館、奈良文化財研究所などであった。

#### ④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、平成24年度は16件の団体見学(表16)の受け入れを行った。昨年度に比べ施設見学が77人増加したものの、発掘現場見学が減ったことにより全体では75人減少した。今後は、発掘調査の減少が予測されていることから、さらに小学校を中心とした団体見学を招致することが重要になってくると考える。



写真12 施設見学

表15 平成24年度物品(県有物)貸出一覧

No.	貸出期間	貸出先	目的	備考
1	H24.4.1～H25.3.31	高知県立歴史民俗資料館	常設展で展示	
2	H24.4.1～H25.3.26	奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長 松井章	動物遺存体に残る加工痕の研究	
3	H24.4.1～H25.3.31	愛知県陶磁資料館館長北川明夫	常設展「猿投・全国古窯陶磁資料展」で展示	
4	H24.4.17～4.26	高知市立昭和小学校伊藤強	6年生社会科学習で活用	
5	H24.4.19～5.1	南国市立大篠小学校彼末健一	6年生社会科授業で活用	
6	H24.4.30～5.31	佐川町立黒岩中学校井上昌紀	歴史授業で使用	
7	H24.5.1～H25.3.31	高知大学人文学部教授清家章	考古学実習で使用	
8	H24.6.6～6.20	高知市立潮江中学校三浦洋志	1年生歴史授業使用	
9	H24.6.11～6.30	榑古環研究所研究員金原裕美子	加工痕の研究	
10	H24.6.13～6.20	香南市埋蔵文化財センター 松村信博	香南市埋蔵文化財センター「フェスティバル」で使用	
11	H24.7.18～7.20	大阪大学研究生竹内裕貴	土器の成形技法や文様の付け方の違いの研究	センター内での実見
12	H24.7.18～8.16	香南市埋蔵文化財センター 松村信博	香南市埋蔵文化財センターの講座で使用	
13	H24.8.13	福岡県教育委員会文化財 保護課主事宮地聡一郎	土器の成形技法や調整技法、胎土の観察	センター内での実見
14	H24.8.28・29	広島大学研究生脇山佳奈	小型仿製鏡に関する資料調査	センター内での実見
15	H24.9.13～10.11	高知市立西部中学校黒瀬絹江	社会科授業に使用	
16	H24.9.24～11.27	徳島市立考古資料館一山典	特別展での展示	
17	H24.10.31	高知大学4年国沢知香	卒論製作のための資料確認	センター内での実見
18	H24.11.20～22	首都大学東京 考古学研究室遠藤英子	碇圧痕の調査	センター内での実見
19	H24.12.3	九州大学4年生福永将大	卒論製作のための資料確認	センター内での実見
20	H24.12.21	高知大学4年国沢知香	卒論製作のための資料再確認	センター内での実見
21	H24.12.25・26	首都大学東京研究室遠藤英子	碇圧痕レプリカ作成	センター内での実見
22	H25.2.19～2.21	首都大学東京 考古学研究室遠藤英子	碇圧痕の調査と碇圧痕レプリカ作成	センター内での実見
23	H25.3.4～3.7	山口大学准教授村田裕一	刃先の磨痕の確認	センター内での実見

2. 指定管理事業

表16 平成24年度施設見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	高知市立介良小学校	H24.5.1(午前)	88	4	92	展示見学, 館内見学, 体験学習
2	高知市立介良潮見台小学校	H24.5.1(午後)	71	2	73	展示見学, 館内見学
3	高知市立潮江中学校	H24.5.16~18	2	0	2	職場体験学習
4	高知市立秦小学校	H24.6.1	94	4	98	展示見学, 館内見学, 体験学習
5	南国市立香南中学校	H24.7.10・11	3	1	4	展示見学, 館内見学, 発掘現場見学
6	いの町立神谷中学校	H24.7.19	6	1	7	発掘現場見学
7	南国市立教育研究所	H24.7.31	20	5	25	展示見学, 館内見学, 体験学習
8	高知市立布師田小学校北地区	H24.8.11	19	9	28	体験学習
9	田村貴子	H24.8.20	1	1	2	発掘現場見学
10	野市高齢者学級	H24.9.13	70	2	72	展示見学, 館内見学
11	北九州市芸術文化財団 埋蔵文化財調査室	H24.9.27	1	1	2	DTP・デジタルトレース作業視察
12	高知市立初月小学校	H24.10.5	140	5	145	展示見学, 館内見学
13	高知市三里史談会	H24.11.22	11	3	14	展示見学, 館内見学, 発掘現場見学
14	高知大学理学部	H24.12.26	1	0	1	発掘現場見学
15	安芸市立穴内小学校	H25.2.15	6	2	8	展示見学, 体験学習
16	南国市立北陵中学校	H25.2.19~21	1	0	1	職場体験学習
合計			534	40	574	

表17 平成24年度現地説明会一覧

No.	開催年月日	遺跡名	開催場所	参加者数	対象
1	平成24年8月4日	奥名遺跡	吾川郡いの町字奥名	43人	地元
2	平成24年10月13日	弘人屋敷跡	高知市帯屋町	100人	一般
3	平成24年12月5日	田村北遺跡	南国市田村	140人	一般
合計				283人	



写真13 現地説明会1(弘人屋敷跡)



写真14 現地説明会2(田村北遺跡)

この内、小学校からの展示・施設見学、体験学習が6件と昨年度より4件少なかったものの大規模校の見学があったため122人増加した。やはり、小学校の団体見学が入館者数を左右する。また、高知市立潮江中学校(2人)と南国市立北陵中学校(1人)の職場体験学習の受入れを行った。埋蔵文化財センターでは、考古学に関連する実習や研修を受入れる体制を取っているものの、年度によって申込の増減がみられることから、今後は日頃から機会がある毎にアナウンスすることが重要であると考えられる。

また、発掘調査に伴う現地説明会(表17)なども3回開催した。

(4) 出前考古学教室

普及教育事業の中核をなし、本年度で15回(表18)を数える。申込校は平成18年度以降年々増加し、平成22年度には108校を数えたが、平成23年度からやや減少傾向となり、本年度は79件であった。可能な限り学校の要望に応えるべく実施回数は前年度より18回多い、79回実施し、実施校は前年度より7校多い、71校であった。

① 概要

本年度は71校(79回)(表18)で実施した。このうち校種別では小学校64校、中学校4校、高等学校1校、公立特別支援学校2校である。また、前期と後期の両方で実施した学校も3校あった。授業等を受けた児童生徒は2,710人、見学のみの児童生徒227人を含めると参加者は2,937人を数える。実施に際しては、前年度に各学校に文書を送付し、4月初旬から下旬にかけて実施校と電話及びファックスで日時、授業、体験学習等の内容について打ち合わせを行った。前期は5月1日の高知市立初月小学校を皮切りに、7月13日の安芸市立伊尾木小学校までおよそ2ヵ月と2週間で実施した。後期は10月1日のいの町立本川中学校から2月1日の高知県立盲学校までおよそ4ヵ月間で実施した。小学校の歴史の授業は9月までに終わるので、学校側は前期の出前を希望することが多い。前期に実施できなかった学校は後期には希望しないことが多いので、できる限り前期に実施しようという昨年の反省があり、例年より回数は多くなり出前が1日2回(2校)ということもあった。後期は前期の授業内容に土器づくりを付け加えた。回数も27回でゆとりをもった出前となった。前期は回数が多くハードであったが、後期はゆとりをもち、活動内容も多くしていくことは有効であった。

また、ボランティアによる協力は前期のみで延べ7人であった。今後はボランティアを増やせるよう検討をしたいと考える。

i 前期

前期は52回・53校(香長小と繁藤小は合同)(表19)で実施した。授業を受けた児童生徒は1,823人、見学のみの児童生徒154人を含めると1,977人を数える。4月初旬から下旬にかけて電話とファックス

表18 平成10～24年度出前考古学教室実績一覧

No.	年 度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業生徒数	参加生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	南国市	小・中学校	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	前期	1,352人	3,789人
4	平成13年度	全県下	小学校	26回	27校	前期	1,060人	2,233人
5	平成14年度	全県下	小学校	27回	31校	前期	944人	2,541人
6	平成15年度	全県下	小学校	29回	31校	前期	1,232人	2,121人
7	平成16年度	全県下	小学校	31回	41校	前期	1,083人	1,083人
8	平成17年度	全県下	小学校	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	全県下	小学校	51回	60校	前・後	1,772人	1,703人
10	平成19年度	全県下	小・中学校	51回	69校	前・後	2,058人	2,467人
11	平成20年度	全県下	小・中学校	52回	64校	前・後	1,688人	2,088人
12	平成21年度	全県下	小・中・高等学校	48回	53校	前・後	1,369人	1,438人
13	平成22年度	全県下	小・中・高等学校	65回	66校	前・後	2,470人	2,571人
14	平成23年度	全県下	小・中・高等学校	61回	64校	前・後	2,045人	2,223人
15	平成24年度	全県下	小・中・高等学校	79回	71校	前・後	2,710人	2,937人
	合計			599回	669校		21,787人	30,429人

## 2. 指定管理事業

で、実施日の時間帯や授業・体験学習の内容などについて打ち合わせを行い、5月1日の高知市立初月小学校を皮切りに7月13日の安芸市立伊尾木小学校までの53校で実施した。

### ii 後期

後期は27回・21校(本山小と吉野小は合同、前期も実施した学校が3校)(表20)で実施した。授業を受けた児童生徒は887人、見学のみの児童生徒73人を含めると960人を数える。後期は1学期の終業式に合わせ、7月下旬に電話で日時の確認を行い、8月下旬から9月上旬にかけて各校との打ち合わせ(実施日の確認・実施内容の検討)を始めた。そして10月1日のいの町立本川中学校から2月1日の高知市高知県立盲学校までの21校で実施した。後期は土器焼き体験を実施した関係で、2回実施した学校が6校(大野見中は3回実施)ある。

### ② 内容

出前考古学教室の内容は、大別すると「授業」・「体験学習」の2つから構成される。「授業」は各時代の特徴を踏まえつつ、高知県の各地域(主に身近な地域)の遺跡との関連性を捉えながら行うこととし、「体験学習」は火起こし、勾玉づくり、土器づくりなどである。いずれも歴史的背景を踏まえつつ児童生徒の興味関心を高めながら文化財保護に関する普及啓発を推進する目的をもった内容である。

また、本年度もボランティアの方々には火起こしや勾玉づくりの支援と協力をして頂いた。

### i 授業

多くの児童生徒は高知県の遺跡を知らない。自分たちの地域に遺跡があるか、ないかと聞くと8割の生徒がないと答えた。また、教員が知らないこともあった。

遺跡に興味をもつことは郷土の先人の生活や生き方を知ることであり自分たちの地域を考えることでもある。昔の人の知恵を学びそれを現代に生かせればすばらしいことだと思う。そのような思いをもって出前を実施してきた。出前の授業については、歴史の学習をしている6年生を中心に、社会科の歴史学習の一環として行うことが多かった。

学校では時代の流れや日本の代表的な遺跡の学習はしているが高知県や校区周辺の遺跡の学習は不十分と思われる。こうしたことから生徒だけではなく、教員にも地域の遺跡を知ってもらうために遺跡地図を学校別に作成し、埋蔵文化財に関心をもたせる授業展開を試みた。また発問により児童生徒の思考を深めるようにした。そのほか視聴覚機器を活用して、発掘現場の調査内容や整理作業の進め方、当センターの事業などについて説明した。

### ii 遺物の展示解説(以下展示)

遺物は旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世のものを展示した。児童生徒は写真でしか土器や石器を見たことがないので、実物を見ると「これ本物？」と目を輝かせていた。直接触れる機会が極めて少ないので手にすると笑顔になり友達



写真15 授業



写真16 遺物の展示解説

表19 平成24年度出前考古学教室前期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)	ボランティア(人)
				学年	人数	学年	人数		
1	5 / 1 (火)	高知市	初月小	6	140	6	140	4	-
2	5 / 2 (水)	大豊町	大杉小	6	10	6	10	3	-
3	5 / 7 (月)	南国市	大篠小	6	154	6	154	3	3
4	〃	高知市	潮江南小	6	77	6	77	3	-
5	5 / 8 (火)	香美市	楠目小	6	24	6	24	3	-
6	5 / 9 (水)	須崎市	吾桑小	6	7	6	7	3	-
7	5 / 10 (木)	大月町	大月小	6	52	1~6	65	3	-
8	5 / 11 (金)	四万十市	東中筋小	6	19	1~6	28	3	-
9	〃	四万十市	東山小	6	42	6	42	3	-
10	5 / 14 (月)	高知市	布師田小	6	13	6	13	3	-
11	5 / 15 (火)	高知市	久重小	6	13	6	13	3	-
12	5 / 16 (水)	南国市	久礼田小	6	29	1~6	36	3	-
13	5 / 17 (木)	黒潮町	上川口小	5・6	10	5・6	10	3	-
14	5 / 18 (金)	黒潮町	入野小	6	26	1~6	36	3	-
15	5 / 21 (月)	いの町	吾北小	6	19	6	19	2	-
16	5 / 22 (火)	土佐市	高岡第一小	6	83	1~6	89	3	-
17	5 / 23 (水)	香美市	大宮小	6	33	6	33	3	-
18	5 / 24 (木)	津野町	中央小	6	15	6	15	3	-
19	5 / 25 (金)	高知市	高知北高	1~3	17	1~3	17	2	-
20	5 / 28 (月)	土佐清水市	中浜小	5・6	13	5・6	13	3	-
21	5 / 29 (火)	宿毛市	咸陽小	6	35	1~6	45	3	-
22	〃	四万十市	下田小	6	13	6	13	3	-
23	5 / 30 (水)	四万十町	大奈路小	5・6	8	5・6	8	2	-
24	5 / 31 (木)	高知市	潮江東小	6	85	6	85	4	-
25	〃	高知市	横浜新町小	6	99	6	99	4	-
26	6 / 1 (金)	高知市	潮江小	6	81	1~6	99	4	3
27	6 / 4 (月)	南国市	長岡小	6	36	1~6	49	3	-
28	6 / 5 (火)	いの町	川内小	6	13	6	13	2	-
29	6 / 6 (水)	津野町	精華小	6	14	1~6	22	2	-
30	6 / 7 (木)	高知市	旭東小	6	61	6	61	4	1
31	6 / 8 (金)	佐川町	尾川小	5・6	9	1~6	13	2	-
32	6 / 11 (月)	黒潮町	三浦小	6	13	1~6	20	3	-
33	6 / 12 (火)	黒潮町	佐賀小	6	15	6	15	3	-
34	6 / 14 (木)	高知市	昭和小	6	86	6	86	4	-
35	6 / 15 (金)	越知町	越知小	6	48	6	48	3	-
36	6 / 18 (月)	室戸市	羽根小	6	19	6	19	2	-
37	6 / 21 (木)	四万十町	米奥小	3~6	9	1~6	12	2	-
38	6 / 22 (金)	田野町	田野小	6	20	6	20	2	-
39	6 / 25 (月)	土佐清水市	下ノ加江中	1~3	42	1~3	47	3	-
40	6 / 26 (火)	三原町	三原小	6	15	1~6	23	3	-
41	6 / 28 (木)	四万十市	八束小	6	13	1~6	28	3	-
42	6 / 29 (金)	宿毛市	橋上小	5・6	10	1~6	13	3	-
43	7 / 2 (月)	土佐市	宇佐小	6	30	6	30	2	-
44	7 / 3 (火)	高知市	一ツ橋小	6	41	6	41	3	-
45	〃	香美市	香長小・繁藤小	6	8	1~6	15	2	-
46	7 / 4 (水)	高知市	旭小	6	91	6	91	4	-
47	7 / 5 (木)	土佐市	高石小	6	13	6	13	2	-
48	7 / 6 (金)	高知市	鏡小	6	8	6	8	2	-
49	7 / 9 (月)	土佐市	蓮池小	6	48	6	48	3	-
50	7 / 10 (火)	須崎市	横浪小	6	16	1~6	24	2	-
51	7 / 12 (木)	土佐市	高岡第二小	6	15	6	15	2	-
52	7 / 13 (金)	安芸市	伊尾木小	6	13	6	13	2	-
合計					1,823		1,977		7

と感動していた。展示も発問をすることにより、興味関心だけではなく自らの生活を考えさせた。遺物を見たり、触れたりすることで古代の人々の生活を考え、埋蔵文化財の大切さを知る機会にもなった。

### iii 体験学習

#### a. 火起こし

舞錐(まいぎり)式を中心にしてペアで火起こしを行い、発火したペアは希望すれば錐揉み(きりもみ)式にチャレンジした。この体験は、自然物を使った道具で児童生徒が火を起こし、火を起こすことの不思議な喜びを実感することと、苦勞して火を起こすことで現代の恵まれた環境を見直すことにある。私たちは日々の生活で簡単に火をつけているが、それは先人が生活の中で努力や工夫によって身につけた知恵である。また古来の日本では火を神聖なものとして扱ってきたという歴史があり、昔の人々は火を大切にしてきたことを知るというねらいもある。火起こしは当日の天候や、使用する道具の「火きり棒」と「火きり板」との相性により発火具合が左右されることもある。発火に時間がかかる児童生徒もあったが、最後まであきらめずに取り組みほとんどのペアが発火させることができた。発火させた時の児童生徒の嬉しそうな顔は忘れられない。協力することの大切さも実感できたのではないだろうか。



写真17 火起こし

#### b. 勾玉づくり

材料の滑石は軟らかく工作が容易なので児童生徒は短時間でオリジナル勾玉を作成できる。勾玉は子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたなどと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く高知県でも数多くの勾玉が出土している。このような由来を勾玉の写真を見て学習をした後、作り方を説明し勾玉づくりを行った。作成時間は1時間であるが丁寧に磨く時間が不足するために慌ただしさを克服することが課題であった。予め勾玉の素材となる滑石に勾玉の絵を描いておくよう依頼した学校もあったが学校側の希望する授業時間との兼ね合いもあって、ゆとりがないこともあった。考古学教室の中で児童生徒に一番人気のあるのが勾玉づくりであり、欠かすことのできない体験学習である。

#### c. 土器づくり

昨年度から土器づくりを後期出前に取り入れるようになった。本年度は6校の希望があり、すべての学校で人気を博した。最初の2時間で土器づくりをして出来上がった土器を1ヵ月間以上乾燥させて、次回の出前の2時間で土器焼きを行った。土器焼きはまず耐火レンガの上で土器を30分炙り、次の30分で火元に近づけ、最後の30分で火の中に入れることになる。児童生徒は土器焼きの途中に土器の変遷についての授業を教室で行い、単に土器焼きを体験するだけではなく古代の人々の知恵



写真18 土器づくり

について考えていった。児童生徒は興味をもって学習できた。最後に自分の焼き上がった土器を見て色の変化に驚いて割れなくて良かったと言っていた。充実した体験学習であり、来年度も継続していきたい。

③ 本年度の成果

授業では地域や県内の遺跡、発掘調査の方法を中心に話をしたが、児童生徒は積極的に参加していた。地域の遺跡に興味をもった児童生徒は遺跡を見に行ったという話を聞いている。想像力の豊かな子どもたちは大人よりも大きな夢やロマンを持てるのかもしれないし、遺物の展示解説では遺物に直接触れて郷土の息吹を感じたのかもしれない。体験学習では火起こしや勾玉づくりや土器づくりを通して、古代人のくらしや生活の一部を知り昔の人々の思いを考えることができた。埋蔵文化財に対する児童生徒の意識も一層高まったと考える。アンケート結果をみると児童生徒、教員共に好評であることから成果は上がっていると判断できる。例年より希望する学校に多く出向くことができたのは有意義であった。来年度も県下の多くの学校に出前考古学教室の風を吹かせていきたい。

④ 今後の課題

i 実施回数等について

79件の申し込みがあり71校(79回)で実施した。県東部の小学校や中学校、高等学校からの応募が  
表20 平成24年度出前考古学教室後期実績一覧

No.	実施日	市町村名	学校名	授業生徒		参加生徒		担当職員(人)
				学年	人数	学年	人数	
1	10 / 1 (月)	いの町	本川中	1・2	19	1・2	19	2
2	10 / 4 (木)	日高村	日高養護学校高等部	1	33	1	33	2
3	10 / 9 (火)	高知市	鴨田小	5	155	1～6	163	4
4	10 / 15 (月)	いの町	吾北小	6	19	6	19	2
5	10 / 16 (火)	室戸市	室戸小	3	36	3	36	2
6	10 / 17 (水)	香南市	佐古小	3	44	3	44	3
7	10 / 19 (金)	中土佐町	大野見中	1	10	1	10	2
8	10 / 26 (金)	中土佐町	大野見中	1	10	1	10	2
9	10 / 29 (月)	南国市	三和小	5・6	43	1～6	55	3
10	11 / 3 (土)	土佐市	戸波中	1～3	70	1～6	78	2
11	11 / 5 (月)	津野町	中央小	6	17	6	17	2
12	11 / 14 (水)	本山町	本山・吉野小	6	29	1～6	36	3
13	11 / 15 (木)	中土佐町	大野見小	6	8	6	8	2
14	11 / 16 (金)	いの町	吾北小	6	19	6	19	2
15	11 / 20 (火)	土佐清水市	幡陽小	4～6	15	4～6	15	3
16	11 / 21 (水)	土佐清水市	清水小	6	76	1～6	96	3
17	11 / 27 (火)	高知市	新堀小	6	56	6	56	3
18	12 / 2 (日)	いの町	枝川小	6	39	6	39	3
19	12 / 3 (月)	津野町	中央小	6	17	6	17	2
20	12 / 6 (木)	中土佐町	大野見中	1	10	1	10	2
21	12 / 10 (月)	四万十町	影野小	4～6	21	4～6	21	2
22	12 / 11 (火)	高知市	盲学校		9		9	2
23	12 / 17 (月)	四万十町	大奈路小	6	8	6	8	2
24	12 / 18 (火)	中土佐町	大野見小	6	8	6	8	2
25	1 / 18 (金)	高知市	長浜小	6	99	1～6	117	4
26	1 / 28 (月)	四万十町	大奈路小	6	8	6	8	2
27	2 / 1 (金)	高知市	盲学校		9		9	2
合計					887		960	

## 2. 指定管理事業

少ないことから、今後はこれらの地域への普及活動に力を入れていくことが大切と考える。出前考古学教室に期待する学校が年々増えていることに応えるためにも学校の希望を最優先すると共に内容を検討する必要もある。また担当者やボランティア体制をより充実させていきたい。

### ii 活動内容について

授業については、視聴覚機器を使って写真や図などを見せたり、また遺物の実物を見せたりして興味関心を持たせるように工夫をしている。時間の制約がある中、児童生徒が理解できる内容を考えていきたい。遺物展示の解説については、旧石器・縄文・弥生時代までは集中して聞いているが、古代以降の説明に対してはやや集中力を欠くことがあったので本年度はクイズ形式を導入して土器あて問題に変えた。子どもたちは活動をすることが好きなので楽しく取り組めた。体験学習については、火起こしや勾玉づくりは単なる体験学習だけではなく火の利用による意味や勾玉づくりの意味を考える機会となった。

### iii アンケート集計結果について(児童生徒, 教員)

#### 〈児童生徒〉

参加については「楽しかった」98.7%、「楽しくなかった」0.3%、「無回答」1.0%で、もう一度勉強してみたいかどうかについては「してみたい」98.5%、「したくない」0.8%、「無回答」0.7%であった。アンケート結果から体験学習が極めて好評であること、この教室を通じて埋蔵文化財に多くの児童生徒が興味・関心を持ったことが窺われる。

#### 〈教員〉

実施については「とても良かった」83.1%、「良かった」16.9%で、「あまり良くなかった」と回答した教員はいなかった。今後については「希望する」95.8%、「希望しない」0%、「無回答」4.2%となっている。学校現場の教員から見た評価も概ね良いと思われる。評価が高かった内容は火起こしと展示見学であった。これまでも児童生徒がいきいきと活動できたという意見や、社会科は苦手だったが歴史が好きになったなどという意見が寄せられており、着実に成果があがっている。担当職員数や時間的な制約は否めないが、アンケート結果を踏まえ、今後の授業の内容や体験活動をさらに充実させるため、学校現場との連携を密にしていきたい。

### iv 道具類について

火起こしの道具は基本的に舞錐(まいぎり)式を利用しているが、今後は安価でより良い道具をどのように調達していくかが課題である。火種を落とすものとして脱脂綿に麻を利用しているが、麻と脱脂綿の両方を使うと火種が抜け難くなり発火しやすい。舞錐(まいぎり)式で火起こしができた児童生徒については、錐揉み(きりもみ)式に挑戦するようにしている。道具は当センターで栽培加工したウツギ(空木)も利用しており手作りを目指している。

### v 担当職員について

3名の担当職員を中心に運営したが、児童生徒の多い学校では他の職員の協力を得て対応した。職員間で連携をとりながら授業や展示解説、体験学習(火起こし、勾玉づくり)に精力的に臨んだ。高知市内の小学校では100人以上の児童と接することも多くボランティアの協力が不可欠であるが、協力が得られない場合には限られた職員でどのように対応するか等課題も残る。

(5) 研修事業

研修事業としては、当センターで行う職員専門研修及び独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が行う埋蔵文化財担当者研修、広島県で開催された埋蔵文化財担当職員等講習会に参加した。職員専門研修は調査員の資質向上を目的として、平成24年度は総合地球環境研究所副所長兼教授佐藤洋一郎氏と高浜市やきもの里かわら美術館教育研究課長金子智氏を招き7月と11月の2回(表21)行った。

また、本年度は奈良文化財研究所主催の埋蔵文化財専門研修「庭園・自然名勝等保存活用基礎課程」と「土器・陶磁器調査課程」に各1名(表22)が参加し、専門的知識の向上を図った。埋蔵文化財の現状と課題を認識するために埋蔵文化財担当職員等講習会に1名(表22)を派遣した。

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講演や大学の非常勤講師の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は10件(表23)の派遣を行った。

また、会議等への派遣は表24のとおりである。



写真19 職員専門研修1



写真20 職員専門研修2

表21 平成24年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	DNAからみた古代米について －イネの歴史－	平成24年7月12・13日	佐藤洋一郎	総合地球環境研究所副所長兼教授
2	近世瓦研究の現状と課題	平成24年11月12・13日	金子 智	高浜市やきもの里かわら美術館 教育研究課長

表22 平成24年度埋蔵文化財担当者研修参加者

No.	研修名	研修場所	研修期間	参加者
1	庭園・自然名勝等保存活用基礎課程	奈良文化財研究所	平成24年6月6～12日	山崎孝盛
2	土器・陶磁器調査課程	〃	平成24年11月12～16日	菊池直樹
3	平成24年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会	広島県福山市	平成24年9月5～7日	吉成承三

2. 指定管理事業

表 23 平成 24 年度講師等派遣依頼一覧

No.	日時・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
1	4月20日	森田尚宏	南国史談会	講師依頼 「南国市の歴史と発掘調査」	大篠公民館ホール
2	6月22日	筒井三菜	南国市久礼田地区史談会	講師依頼 「南国出土の青銅器」について	南国市立久礼田 公民館
3	6月23日	宮里修	徳島市立考古資料館	講師依頼 「四国地方の銅鏡～弥生時代～」	徳島市立考古資料 館研修室
4	7月27日	久家隆芳 安岡猛	高知県スポーツ少年団	体験学習の講師依頼 平成24年度四国ブロックスポーツ少年団 リーダー交流大会「勾玉づくり火起こし」	野市青少年 センター
5	8月9日	吉成承三	いの史談会	講師依頼 「いの町内遺跡発掘調査結果について」	いの町立図書館 2階多目的ホール
6	8月19日	吉成承三	高知県立伊野商業高等学校	講師依頼 第4回「いのサマーセミナー」1コマ	高知県立伊野商業 高等学校
7	10月1日 ～ 2月18日	廣田佳久	高知県立大学	高知県立大学非常勤講師依頼 (考古学・博物館学Ⅱ)	木・金曜日 の5限目
8	1月27日 3月24日	池澤俊幸	高新文化教室	講師依頼 「土佐を掘る」 発掘調査で現れた高知「お城下」の歴史	高新企業文化・保 険局文化センター
9	2月8日	吉成承三	高知城友の会	講師依頼 「中世城郭と近世城郭」 ～縄張りの特徴をみる～	高知県立文学館
10	2月17日	廣田佳久	(公財)徳島県埋蔵文化財 センター	講師依頼 「四国の古代～四国各県の発掘調査報告会」	徳島県立埋蔵文化 財総合センター

表 24 平成 24 年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	第4回「続・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成24年4月25・26日	廣田佳久・下村裕
2	第33回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(千葉市)	平成24年6月21日	久家隆芳
3	第4回「続・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成24年9月14日	谷脇正・下村裕
4	平成24年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(山口市)	平成24年10月11・12日	嶋崎るり子・藤野明弘
5	平成24年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(富山市)	平成24年11月8・9日	森田尚宏・下村裕
6	第4回「続・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成25年1月8日	廣田佳久
7	第4回「続・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成25年3月22日	廣田佳久

## IV 各遺跡の発掘調査概要

### 1. 田村北遺跡(12-1NTK)

所在地 南国市田村

立地 沖積平野

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成24年4月6日～平成25年2月28日

調査面積 27,700㎡

担当者 出原恵三・池澤俊幸・坂本憲昭・北井達朗・小山求・茂松清志・菊池直樹・松本安紀彦・山崎孝盛

調査内容 田村北遺跡に隣接する田村遺跡群では、高知龍馬空港整備に伴う大規模な発掘調査が過去に2度実施され、縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が数多く確認されている。中でも、環濠に囲まれた弥生時代の大規模拠点集落の存在と守護代細川氏の居城とされる田村城館(南国市指定史跡田村城跡)の存在は特筆され、田村遺跡群は県下最大級の遺跡として名実ともに南四国地域の歴史文化を考える上で必要不可欠な遺跡といえる。田村北遺跡はそうした田村遺跡群の北隣に位置しており、平成22年度から高知南国道路建設に伴う発掘調査を実施している。今年度の発掘調査では高知南国道路の計画路線内の東西幅約800m、面積にして27,700㎡の調査を行った。調査区として西からⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区・Ⅳ区を設定し、5班体制、80名近くの作業員を動員して通年に渡って調査を実施した。

まず、発掘調査で明らかになった旧地形についてみる。物部川右岸は南流する物部川の旧河道と網状流路によって東西方向に起伏がみられ、自然堤防状の微高地と後背湿地で構成される。今回の調査区で微高地が確認されたのはⅡ区東側からⅢ区西端とⅢ区東側からⅣ区にかけての2ヵ所で、Ⅱ区からⅠ区に向って緩やかに傾斜し、現況で田村川が南流するⅢ区中央部が最も低い谷地形となっていた。弥生時代から古代の遺構の密度はこの状況を反映していた。

今年度の主要な調査成果としては、弥生時代では、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、溝跡、溝状土坑、土坑、井戸状遺構、大溝跡などの検出を挙げることができる。竪穴建物跡は調査区東方のⅢ区東端からⅣ区周辺で一つのまとまりが確認され、弥生時代中期後半の竪穴建物跡を20軒(写真21)ほど確認した。平面形は円形で、径7m前後のものが多く、残りの良いものは検出面から0.4mほどの深さを確認できた。構造的には6個以上の柱穴で構成され、壁溝および中央ピットを有している。確認された内の1軒の埋土からは多量の炭化物や焼土に加えて、壺や甕、高杯、器台、石鏃、砥石などの破片が拳大の円礫に混ざるような形で出土した。そうした状況からは、竪穴建物の終焉に際して生活用具である土器類を一括廃棄した状況が推察される。その他に焼失痕跡を留めた竪穴建物跡も確認されている。また、竪穴建物跡の周辺からは、同時期の掘立柱建物跡や溝状土坑、土坑

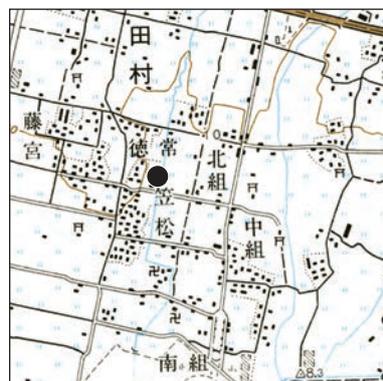


図10 田村北遺跡位置図



写真21 竪穴建物跡群

## 1. 田村北遺跡

や溝跡などを確認している。加えて、Ⅲ区東側では弥生時代中期の井戸状遺構(写真22)を確認した。井戸状遺構は素堀で、平面形は不整形で断面は逆台形をなし、規模は長辺 5.8m, 短辺 2.0m, 深さ 1.7m を測る。底付近からは、弥生時代中期後半の壺や甕などが数個体まとまって出土した。特筆される点は、斜面が昇降用に階段状のスロープとなっている点で、頻繁に利用するために造作したものと考えられる。現状では基底面から湧水はみられないものの、深さが 2m 近くあることから井戸ないし水溜りに利用された可能性が高い。



写真22 井戸状遺構

田村遺跡群における弥生時代中期のこのような発見例は少なく注目される調査成果の一つである。Ⅲ区東端からⅣ区にかけては、集落に関連する竪穴建物跡や溝跡・土坑などの一定のまとまりを確認しており、井戸状遺構が確認されたⅢ区東側になると遺構密度は減少する傾向にある。井戸状遺構はⅣ区周辺に中核を持つ集落の縁辺部に掘られた井戸であった可能性が高い。

Ⅳ区以外では、Ⅰ区の西端で弥生時代後期末の竪穴建物跡を数軒確認している。竪穴建物跡の埋土からは、炭化物と共に弥生時代後期末の土器が多量に出土した。出土土器の中には畿内地域からの搬入土器も含まれており、注目される。その他Ⅰ区周辺では弥生時代中期の大溝跡(写真23)を確認している。2条の大溝跡はⅠ区の西端から約40mほど東流し、調査区の中央付近で一旦溜まりを形成した後、1条は南、1条は南東方向に流れる状況を確認した。大溝跡は、上端で幅4～7m、深さは1m前後を測る。断面形はV字ないしU字をなす。溝は部分的に人為的に改変された可能性があり、機能や用途に関しては、時期認定も含めて今後の課題である。



写真23 大溝跡

続く古墳時代の遺構は、弥生時代の遺構に比べて少ない。主要な遺構としては、Ⅲ区西側で確認された古墳時代後期の竪穴建物跡を示すのみである。竪穴建物跡の平面形は方形を呈しており、確認された中で大きいものは一辺5mを測る。周辺では、8軒の竪穴建物跡を確認しており、一つのまとまりが認められる。竪穴建物跡はいずれも残りが悪く、検出面から5cmほどを残すのみで、上部は大幅に削平されている。そのため建物跡の内部構造は不明な点が多く、柱穴や壁溝、炉跡など判然としないものも多い。竪穴建物跡の埋土および周辺からはTK217型式を中心とした須恵器の杯、甕、壺、高杯などの小片が出土しており、いずれも古墳時代終末段階の竪穴建物跡と考えられる。

古代の遺構としては、Ⅲ区西側とⅣ区東側にまとまりを確認した。まず、Ⅲ区では溝跡や土坑に加えて、3棟の掘立柱建物跡を確認した。掘立柱建物跡は、桁行3間、梁行2間と桁行5間、梁行2間の二つのタイプが確認され、いずれも柱間寸法は1.8mで、柱穴は一辺0.5～0.6mの方形をなす。建物跡の周辺からは奈良時代の須恵器の杯や甕などの小片が出土している。Ⅳ区では掘立柱建物跡を

3棟ほど(写真24)確認している。掘立柱建物跡は桁行4間、梁行2間で、柱間寸法が2.0mで、柱穴は一辺が0.7mの方形をなす。IV区の注目される成果としては、建物跡周辺から土師器や須恵器の杯や皿類などに加えて、円面硯や畿内産土師器などの特徴的な遺物が出土している点で、一般集落とは異なる性格を示している。今年度の調査では、一定の範囲に複数の建物の存在が確認されたことで、古代の段階に同地域が一つの中核的役割をなしていた可能性が示唆される。また、中世の遺構からではあるが、越州窯系とみられる青磁片が出土している。四国でも稀少な発見であり、他の搬入品との関連を考える上でも興味深い資料である。



写真24 掘立柱建物跡

その他の古代の遺構としては、Ⅲ区中央の谷地形をなす標高の低い部分で、畝状遺構や畦畔などが確認され、水田跡の可能性が示される。農業生産に関連すると考えられるそうした遺構の性格の精査と検証は今後の課題である。

中世の遺構としては、Ⅱ区で区画溝に囲まれた室町時代の方形の屋敷跡(写真25)を確認した。今回の調査では調査区の制約もあり屋敷区画の全容の把握には到っていないが、確認された溝跡から復元される屋敷区画の一辺は約38mで、調査区の東側では区画溝の北東隅およびその続き、西側では内側の溝とそのさらに外側に巡る二重の区画溝を確認している。内側の溝跡は断面V字形で幅1.6m、深さ0.9mを測り、外側の溝跡は浅く、断面逆台形で幅0.9m、深さ0.3mを測る。屋敷内の中心付近には柱穴や土坑が集中していた。柱穴や区画溝の埋土からは、室町時代の土師質土器の碗や皿、瓦質播鉢、土鍋、京都系土師器、陶器、貿易陶磁器の青・白磁類などが出土している。Ⅱ区周辺からはその他にも、和泉型瓦器碗など特徴的な遺物が確認されている。Ⅱ区及びⅢ区西側、Ⅳ区の一部でも中世遺構のまとまりを確認した。厳密な性格づけができる遺構は少ないが、土坑やピット類を多数確認したことからも、活発な土地利用の一端が示される内容といえる。その中でも前述の溝に囲まれた屋敷跡などは中核をなすもので、過去の田村遺跡群の調査で確認された中世屋敷群との比較も今後の課題である。



写真25 溝に囲まれた屋敷跡

近世以降の遺構は、調査区西側のⅡ・Ⅲ区でまとまって確認された。遺構としては溝跡や土

## 1. 田村北遺跡

坑、ピットなどが大半を占め、そのほとんどは屋敷跡に関連したものと考えられる。各遺構からは、当時の生活に使用された陶磁器類や陶器を中心に、椀や皿、播鉢、瓦類などが出土している。その他には、井戸跡や平面形が円形ないし方形をなす用途不明の土坑なども併せて確認した。Ⅱ区で確認された円形土坑は径1.5m、深さ1m程度で、土坑の壁面が木柵状のものとハンダ状の2つの種類がある。隣接して確認された井戸跡は素堀で、掘削は湧水層である砂層にまで達していた。円形土坑や井戸跡からは、18世紀後半から幕末期にかけての遺物が出土している。Ⅲ区東側では、近世から近代にかけて使用されたとみられる石組井戸跡も確認された。そうした井戸跡や円形土坑などは周辺の状況から推察するに農業生産などに関連した遺構の可能性も考えられる。

最後に、今回の調査成果から示される田村北遺跡の景観変化を概観する。弥生時代中期後半の段階で微高地の比較的条件的の良い場所である調査区東方のⅢ区東側からⅣ区周辺に一つの集落が形成され、集落の縁辺には井戸跡とみられる遺構も認められる。確認された集落は田村遺跡群全体からみれば小規模な内容であるが、田村遺跡群北方(縁辺部)の様相が少なからず解明された。調査区西方のⅠ・Ⅱ区付近では、調査区外に集落遺構の存在する可能性は残すものの、現段階で確認された集落遺構は希薄であり、低地に複数の大溝や流路の交差する状況がみられた。複数の流路の存在からも居住域には不向きな低湿地であった可能性が考えられる。古墳時代の遺構は、Ⅲ区の微高地の一角に小規模ながら竪穴建物跡のまとまりがみられた。後世の開発による削平の影響を考慮に入れねばならないが、今回の調査内容だけを断片的にみても、弥生時代の遺構に比して古墳時代のそれは少ない。続く古代には、官衙関連とみられる建物群が調査区中央のⅢ区西側と調査区東方のⅣ区東側の微高地上で、方位を考慮し計画的に配置される状況で確認した。建物規模や周辺から出土した円面硯や畿内産土師器などからは、同地域が古代に中核的機能の一端を担っていた可能性が示される。また、過去の田村遺跡群で確認されている古代の掘立柱建物群や「田村荘」との関係も興味深い。次の中世の段階では、古代に利用されていた空間をやや広げて土地利用する状況を確認した。Ⅱ区では二重の区画溝に囲まれた屋敷跡を確認しており、Ⅱ・Ⅲ区の微高地上に土地利用の一端を垣間みることができる。Ⅱ区の溝に囲まれた屋敷跡などは、田村城館周辺で過去に確認されている中世屋敷群との比較検討や『長宗我部地検帳』などの文献研究との対比も含め今後の重要な課題である。近世の段階では、屋敷跡や農業生産に関連すると考えられる遺構が、Ⅱ・Ⅲ区を中心に確認された。周辺の調査状況からみても、近世以降には現在の農村風景に近い景観形成がなされていたと考えられる。



写真26 発掘調査風景

## 2. 天神溝田遺跡(12-2ITM)

所在地 吾川郡いの町字天神

立地 丘陵谷部

時代 中世～近世

調査期間 平成24年4月24日～5月28日

調査面積 220㎡

担当者 吉成承三・武森清幸

調査内容 天神溝田遺跡は、国土交通省が計画している高知西バイパス建設工事に伴い平成20年度から発掘調査を実施してきた。遺跡は仁淀川の左岸に位置し、支流である宇治川との合流地点に立地する。昭和36年の宇治川改修工事の際に、弥生時代の銅剣と銅戈が発見されたことから弥生時代の遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地になった。また、遺跡の南に隣接する丘陵上には、中世の山城である音竹城跡が所在し、平成20年度に先行して実施された町道建設に伴う発掘調査では、丘陵の裾部を中心に中世(鎌倉時代～南北朝期)の遺構と遺物、下層からは古代(奈良～平安時代)、弥生時代後期の遺構と遺物が確認され、複合遺跡であることが判明した。

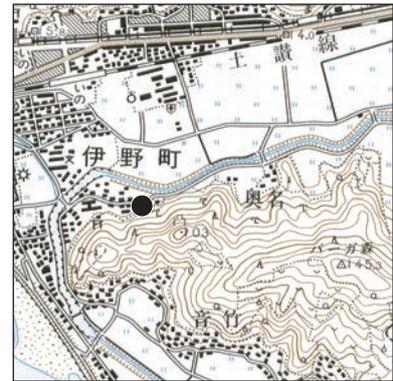


図11 天神溝田遺跡位置図

本年度の調査は、未買収地として残っていた部分について実施したが、まず、これまでの調査成果をまとめた上で、概要を述べる。

天神溝田遺跡の発掘調査は、高知西バイパス建設計画に伴い平成18年度に実施した試掘調査の結果を受け、古代～中世を中心とする遺構と遺物が確認された天神地区の丘陵谷部を中心に西側の谷部をⅠ区、中央部をⅡ区、東の谷部をⅢ区として調査区を設定し、平成20・21・23・24年度と4年にわたり本調査を実施してきた。総調査面積は6,600㎡であった。天神溝田遺跡の発掘調査の成果を総括すると、Ⅰ区では弥生時代後期後半の土器集中と平安時代後半の鍛冶関連遺構及び17世紀前半～18世紀代の遺構が検出されている。Ⅱ区では主に中世の遺構と遺物が検出された。遺物では土師質土器・瓦質土器・東播系須恵器・常滑焼・備前焼・龍泉窯系青磁・筭、遺構では断面V字形を呈した屋敷を区画する溝跡、掘立柱建物跡、土坑が検出された。これらの出土遺物から14～15世紀にかけての集落と考えられる。また、この集落から離れた地点から備前焼の壺を用いた埋納遺構が検出された。壺の中には土師質土器皿20枚、銅銭393枚を納め、和鏡で壺の口を封印したとみられる。和鏡は円鏡であり、州浜・松樹・双雀の文様を配し、松樹の一部には雀の巣が陽刻されている。和鏡は完全な状態で出土し、紐座には紐が残っていた。遺構の時期は、容器として使用された備前焼壺と中から出土した土師質土器の形態などから15世紀前半頃が考えられ、出土状況からみて地鎮、もしくは呪術など宗教的な使用方法が考えられる。Ⅲ区では、須恵器・土師器、緑釉陶器、黒色土器など古代の遺物が中心に出土し、当該期の土坑とピットを検出している。

天神溝田遺跡の発掘調査は、高知西バイパス建設計画に伴い平成18年度に実施した試掘調査の結果を受け、古代～中世を中心とする遺構と遺物が確認された天神地区の丘陵谷部を中心に西側の谷部をⅠ区、中央部をⅡ区、東の谷部をⅢ区として調査区を設定し、平成20・21・23・24年度と4年にわたり本調査を実施してきた。総調査面積は6,600㎡であった。天神溝田遺跡の発掘調査の成果を総括すると、Ⅰ区では弥生時代後期後半の土器集中と平安時代後半の鍛冶関連遺構及び17世紀前半～18世紀代の遺構が検出されている。Ⅱ区では主に中世の遺構と遺物が検出された。遺物では土師質土器・瓦質土器・東播系須恵器・常滑焼・備前焼・龍泉窯系青磁・筭、遺構では断面V字形を呈した屋敷を区画する溝跡、掘立柱建物跡、土坑が検出された。これらの出土遺物から14～15世紀にかけての集落と考えられる。また、この集落から離れた地点から備前焼の壺を用いた埋納遺構が検出された。壺の中には土師質土器皿20枚、銅銭393枚を納め、和鏡で壺の口を封印したとみられる。和鏡は円鏡であり、州浜・松樹・双雀の文様を配し、松樹の一部には雀の巣が陽刻されている。和鏡は完全な状態で出土し、紐座には紐が残っていた。遺構の時期は、容器として使用された備前焼壺と中から出土した土師質土器の形態などから15世紀前半頃が考えられ、出土状況からみて地鎮、もしくは呪術など宗教的な使用方法が考えられる。Ⅲ区では、須恵器・土師器、緑釉陶器、黒色土器など古代の遺物が中心に出土し、当該期の土坑とピットを検出している。



写真27 掘立柱建物跡

## 2. 天神溝田遺跡

この内本年度はI区の南西側220㎡を対象に調査を実施した。検出遺構は掘立柱建物跡(写真27)、柱穴、土坑であり、掘立柱建物跡は桁行4間×梁行1間のものとは桁行2間以上×梁行1間の規模の南北棟建物が復元できる。出土遺物は中世と近世の遺物の組成が高く、中でも土師質土器の細片が多く出土しており全体の84%を占める。土器自体が摩耗している破片が多く周辺部からの流れ込みや近世から近代の開墾の影響を受けているものとみられる。近世では肥前系陶磁器、瀬戸・美濃系陶器、在地産の尾土焼などの陶磁器類が出土している。この内、肥前系の陶磁器では唐津焼の灰釉皿(写真28)や銅緑釉の皿など17世紀前半～18世紀初頭にかけての一群、瀬戸・美濃系陶器では陶胎染付の広東茶碗がみられる。検出された遺構の時期は、柱穴及び検出面から出土した遺物から概ね17世紀後半～18世紀に位置付けられる。調査区北側を平成21年度に調査しており、その際、同時期の溝で区画された屋敷内に東西棟建物跡2棟、竈と思われる焼成土坑2基が検出されている。さらに、屋敷内には近世の土坑墓も確認されている。今回の調査によって、新たに検出された南北棟建物跡を含め、これまでの調査結果から溝で区画された屋敷内の様相を概ね把握することができた。



写真28 肥前系陶器(唐津焼)出土状態

### 3. 奥名遺跡(12-3IO)

所在地 吾川郡いの町字奥名

立地 丘陵谷部

時代 古代～近現代

調査期間 平成24年5月24日～8月10日

調査面積 1,400㎡

担当者 吉成承三・武森清幸

調査内容 奥名遺跡は仁淀川の支流、宇治川左岸に立地し、昭和54年の宇治川の改修工事の際に縄文時代中期の土器片が採取されたことにより埋蔵文化財包蔵地となった。遺跡の背後丘陵には、弥生時代中期末～後期初頭の高地性集落であるバーガ森北斜面遺跡や中世山城の音竹城跡が所在する。

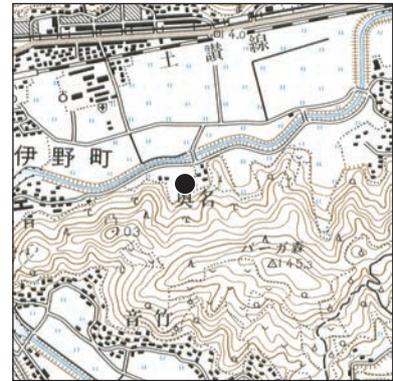


図12 奥名遺跡位置図

本年度の調査は、国土交通省が計画している高知西バイパス建設工事に伴って行った平成22年度の確認調査で、山際のトレンチから中世の遺構と遺物が確認されたことを受けて実施された。調査地点は、昨年度調査したバーガ森北斜面遺跡岩神地区の西側谷部に当たり、現況は段畑状の畑地で、標高は15.50～17.50mを測る。谷水が豊富で、調査区内で湧水が認められる箇所があった。基本的な堆積は、I層が現畑耕作土で、主に近世～近現代の陶磁器や瓦などの遺物が混じっていた。II層は旧耕作土で、オリーブ褐色シルト層となり近世の遺物を包含していた。出土遺物は調査区南部から中央部を中心に、肥前系磁器や尾土焼、能茶山焼など18～19世紀の陶磁器類が出土した。III層は黒褐色粘土質シルトで、調査区南部から中央部にかけて堆積が認められた。主に土師質土器の供膳具、鍋の破片、瓦質土器、青磁など鎌倉時代～南北朝期を中心とする遺物が出土した。IV層は遺構検出面で、黄褐色シルト質砂となっていた。また、調査区中央部と北部の畑地の境界は1.0mほどの石垣が構築されており、石垣の裏込からは18世紀後半を中心とする近世の遺物が出土した。一方、検出された遺構の中には古代と判断されるものもあったが、その埋土(暗褐色粘土質シルト)が堆積層に認められないことから遺跡は後世の開墾時の削平の影響を少なからず受けているものと考えられる。

遺構検出面は標高15.20～16.25mを測り、調査区南部と中央部との境界には中世段階に造り出されたと考えられる0.50～1.20mの段差がみられ、一段高い南部では、中世～近世の掘立柱建物跡の柱穴(写真29)や土坑が検出された。中世の柱穴の中には土師質土器の杯・皿、銭貨が伴出した地鎮ピットとみられる柱穴も認められた。一段低い調査区中央部では、中世の桁行4間×梁行3間の掘立柱建物跡が検出されており、規模が大きく中心的建物になるものと考えられる。また、この建物の北側には、棟方向に沿う形で溝跡が検出されており、屋敷の区画溝として捉えることができる。さらに、



写真29 遺構完掘状態(南西より)

### 3. 奥名遺跡

建物跡の西側では墓の副葬品として考えられる銭貨と土師質土器の皿が出土した径0.8～1.2mを測る円形土坑が検出されたことから屋敷内に墓(屋敷墓)が存在したことが示唆される。

調査区北西部では古代(9世紀末～10世紀)の遺物を伴うピットが集中して検出された。遺構は山側に集中しており、山裾の小高い部分が生活域であったものとみられる。また、前述の石垣下では中世の井戸跡を検出した。井戸



写真30 井戸跡

跡は径1.2mの石組井戸(写真30)で、深さは検出面から3.0mを測り、底面からは湧水が認められ、曲物、漆器椀、杭などの木製品が出土した。

出土遺物の帰属時期をみると古代(9世紀末～11世紀)から中世(13世紀後半～15世紀)、近世(17～18世紀後半)、近現代(19～20世紀)の各時代にわたる。古代の遺物は調査区北西部でまとまって出土し、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器などがみられ、中世の遺物は調査区南部から中央部にかけての皿層からまとまって出土し、土師質土器、瓦質土器、東播系須恵器、備前焼、青磁、白磁、青花などがあつた。近世の遺物では、唐津焼の皿など17世紀後半に位置付けられるものと尾土焼、能茶山焼など18～19世紀に地元で生産された陶磁器類を中心に肥前系の陶磁器などの流通品もみられた。遺物の組成は、碗や皿といった供膳具、焙烙鍋や火鉢といった雑器など生活用具が多種にわたっていた。また、円鏡で文様意匠が浜松双鶴紋に桐紋を描いた江戸時代の「蓬莱鏡」も出土し、江戸時代を通じて生活を営んでいた場所であることが窺える。

本年度、調査を行なった奥名遺跡では、周辺部の天神溝田遺跡の調査で確認された南北朝期～室町時代を中心とする掘立柱建物跡と溝跡、土坑などと同時期の遺構が確認され、音竹城跡との関連が考えられ、当時の屋敷の広がりや規模を考察する上で貴重な資料となった。調査対象地の南谷奥には、伝承で城館の井戸(宝泉と呼ばれる)があつたとされている場所があり、こうした取水施設を管理する目的で設けられた屋敷であつた可能性も考慮される。音竹城跡については城主や時代などの詳細は不明であるものの、今回の調査成果により城に関連すると考えられる屋敷や中心的な活動の時期を知ることができた。また、江戸時代から現代(大正～昭和初期)に至るまで屋敷地として使用され幕末～明治期に屋敷の一部が耕作地に変わる過程など近世の土地利用の変遷を知ることができた。

#### 4. 弘人屋敷跡(12-4KY)

所在地 高知市追手筋二丁目・帯屋町二丁目

立地 沖積地

時代 古代～近代

調査期間 平成24年5月21日～平成25年1月31日

調査面積 1,726㎡(延べ面積5,178㎡)

担当者 宮里修・島中宏文

調査内容 弘人屋敷跡は近世の家老屋敷跡として周知された埋蔵文化財包蔵地であったが、平成23年度の発掘調査では粗朶遺構などの近世遺構と共に護岸工事を行った中世の水路が発見され、土地の歴史が従来の認識よりも遡ることが判明した。このことから、

地盤が良い平成24年度調査区では近世ならびに中世の生活痕跡が多数発見されるものと予想された。調査の結果、近世の遺構は後世の削平により相当部分が湮滅していたが、中世の遺構は調査区全面を覆い尽くすほど濃密に遺存しており、さらには古代に遡る遺構も発見された。発見された遺構には区画溝・墓・井戸跡など様々あるが、とりわけ各時期で確認された区画溝は土地の歴史を考える資料として非常に興味深い。古代(11世紀頃)の溝は2条が調査区を斜めに横切るように延びるが、中世(15世紀頃)の溝は、数条が現在の道筋と同じ方向に延び、土地を縦横に区画している。これは近世城下町の地割を継承する現在の街区が中世に起源することを示している。高知城付近一帯の土地は考えられてきたよりも長い歴史の上に成り立っていたのである。

平成24年度の調査では、溝跡(SD)22条、井戸跡(SE)13基、土坑(SK)209基、不詳遺構(SX)8基、流路跡(SR)2条、ピット898個、近代遺構(KG)95基を検出した。遺物はコンテナケースで陶磁器・土器87箱、石製品3箱、木製品42箱、人骨を含む骨・貝類10箱、金属製品1箱相当が出土した。

区画溝には古代・中世・近世、井戸跡には中世・近世・近代、土坑には古代・中世・近世、不詳遺構には古代・中世・近世、流路跡には古代・中世の各時期がある。うち土坑には6基の墓が含まれる。

以下、発見された区画溝・墓・井戸跡のうち主要なものについてその内容を記す。

区画溝は22条を検出した。うちSD1・14は近世の溝で各々が屋敷の西縁・北縁を区切る。中世のSD2は調査区を東西に貫き土地を南北に分ける。SD8・9・17・23は同一箇所を繰り返し掘削された南北に長い溝である。SD8・9・23(写真31)は中世、SD17は近世である。SD12・13・22は古代の溝である。

SD2(写真32)は東西方向に長く延びる溝で、軸方向が現在の追手筋と平行する。調査区内では長さ33mまでを確認したが、さらに調査区外に延長する。断面は



写真31 溝跡の断面

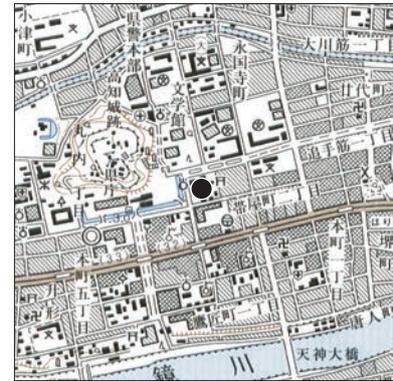


図13 弘人屋敷跡位置図

#### 4. 弘人屋敷跡

逆台形で上幅1.52～1.62m、底幅0.76～0.96m、深さ0.70～0.90mである。7カ所で土層断面を確認したが、総じて基本層序Ⅲ層に由来する褐灰色土が埋土の主体をなす。相対的な傾向として、遺跡の中央付近はシルト質、東寄りでは砂質気味であった。埋土のパターンは一定でないが、共通する傾向として埋没は北側から始まり、また水流が認められない。溝は北高南低の土地の変換点を画しており、SD2の南側は時期を問わず遺構が少ない。出土遺物は埋土中から青磁、備前焼播鉢、瓦質鍋、播磨型土器羽釜などが出土しており、15世紀代に廃絶したとみられる。

SD8は現在の街区に沿って南北方向に延びるが、これに先行するSD23は軸が西に約8度振れる。

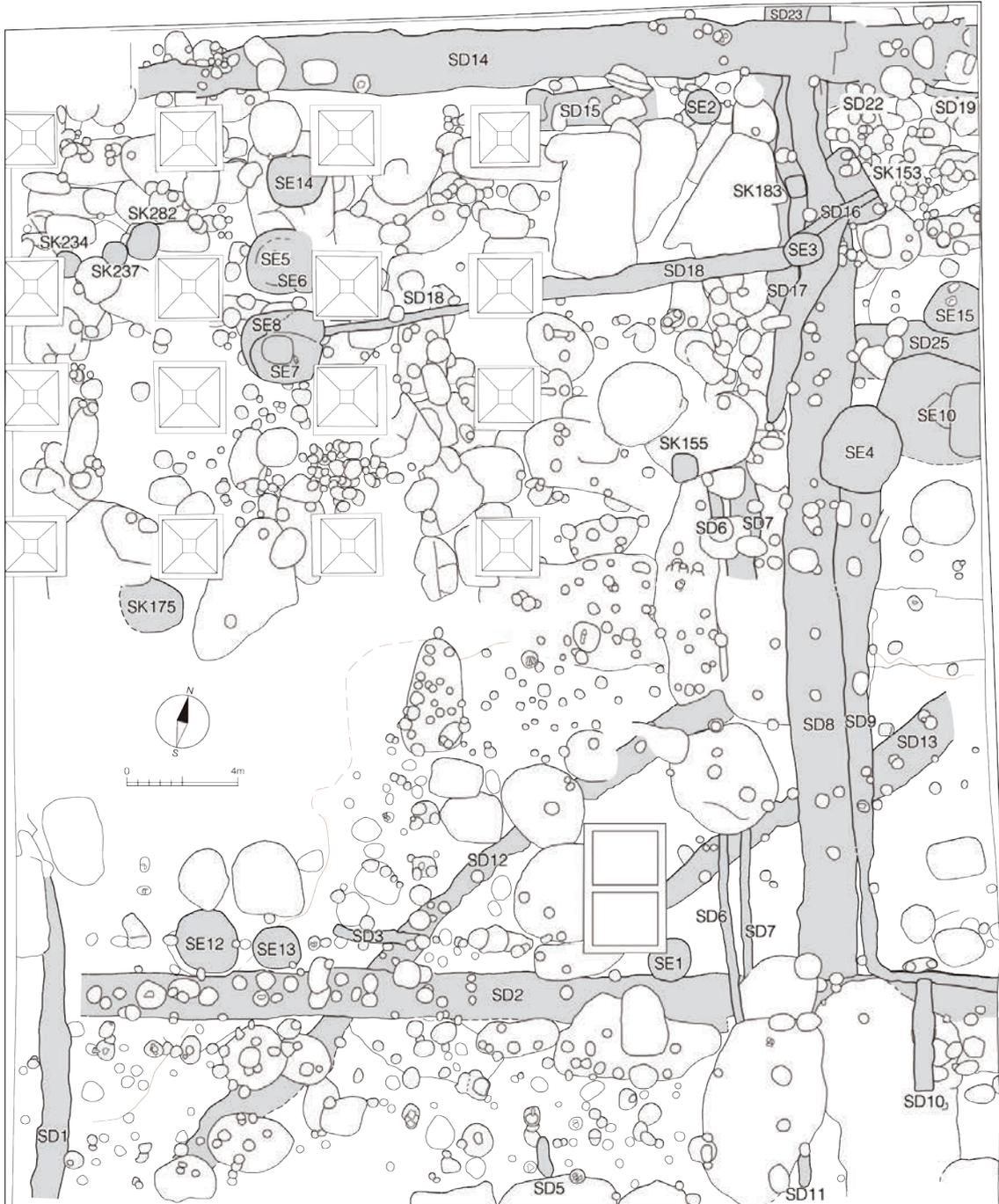


図14 遺構平面図

SD8 に遅れるSD9 はSD8 と軸方向が同じであるが、南端がL字形に屈折し東に向きを変える。SD17 は中間で屈折し方向を変えた後、立ち上がる。同一箇所を繰り返し溝が掘削されるのは微地形との関連が想定されるが、その内容は時期ごとに異なっており土地利用の変遷に対応した変化とみられる。

SD12 とSD13 は5m程度の間隔をおいて並走する古代の区画溝で、北東から南西方向に延びる。断面はともに逆隅丸台形で幅1.50m前後、深さ0.4m前後である。埋土はいずれも基本層序Ⅲ層下層に由来する褐灰色砂質シルトで、流水は認められない。遺物は埋土中から11世紀代とみられる土師質土器杯・皿、須恵器などが出土した。

墓は6基を確認した。SK153・155・183・234・237・282である。墓制には3種類あり、1基は備前焼大甕を用いた甕棺墓(SK153)、3基は早桶を用いた座葬の円形木棺(SK155・234・237)、2基は早桶を横倒しにした円形木棺(SK183・282)である。座葬円形木棺のSK155が近世である他は、いずれも中世の墓とみられる。

SK153(写真33)は備前焼大甕を棺に転用した甕棺墓である。平面1.20×3.00m、深さ0.35mの方形土坑の中央に最大径60cmの大甕より一回り大きな埋置坑を掘削し、甕を埋置していた。埋置坑と甕の間からは埋戻し時の投棄とみられる土師質土器の小皿が数点出土した。大甕内の埋土は上中下3層に分かれ、下層で遺存状態の良好な人骨を検出した。人骨は頭蓋骨・歯牙・腕骨・骨盤・大腿骨・頸骨などが確認でき、配置によれば座位の屈葬であった可能性がある。棺に転用されたのは15世紀代に製作された備前産の大甕である。胴部に生じた割れ目に帯布をあて漆で固めて補修した痕跡がある。

SK155は早桶を棺に用いた近世の円形木棺墓である。方形の墓坑を掘削した後、やや偏した位置に棺を置き裏込土で固定している。底板・人骨・盖板を重層的に検出することができ、人骨は歯牙・肋骨・大腿骨などを確認した。円形木棺下部の墓坑底には大小の土師質土器の小皿と細長い木板が置かれていた。

SK282(写真34)は早桶を横倒しにして棺とした横置円形木棺墓である。人骨は頭蓋骨・下顎骨・歯牙・腕骨・脚骨とみられる部位を確認した。人骨が0.40×0.60mの範囲に収まっていることから、横位の屈葬とみられる。棺底からは銭貨1枚が出土した。棺と墓坑南壁の間には空間があり、一方の隅から土師質土器の杯5点と方形板1枚、短冊状の板2点が出土した。杯はいずれも正置で、3点が土坑隅のカーブに沿うように並べ置かれ、その内側に残りの2点がやや間をおいて置かれていた。20cm四方の方形板は内側の杯2点を覆うように置かれ



写真32 溝跡



写真33 甕棺墓



写真34 木棺墓

#### 4. 弘人屋敷跡

ていた。

井戸跡は13基を確認した。SE1・12・13が中世, 残りは近世である。昨年度調査では近代の井戸跡も確認している。遺存状態は必ずしも良好でないが, 大部分が井戸側に木材を使用したとみられる。

SE1(写真35)は掘方平面が円形で, 規模は上径1.50m, 底径0.80m, 深さ1.20mである。土層断面と深さ0.60mレベル

で井戸側の木材痕跡を確認した。形は歪んでいるが, 本来は板材を方形に組んだ井戸側とみられる。平面は0.40×0.60m, 深さは0.60mまでを確認した。遺物は井戸側内埋土および裏込土から瓦質鍋・播鉢など中世の遺物が出土した。

SE10(写真36)は調査区東壁で確認した近世の井戸跡である。掘方は椀形の掘り込みの中央をさらに筒形に掘り下げた形状である。井戸側は桶側とみられ, 箍が遺存していた。遺物は井戸側内埋土・裏込土から下駄・椀等の木製品, 小柄等の金属製品と共に19世紀代の陶磁器が出土した。

その他発見された多数の遺構の中には, 土師質土器の皿をはじめとする多量の器を一括廃棄したものが複数あった。

SK175(写真37)では炭化物層の中から同型同大の土師質土器杯40個体近くがまとまって出土した。SK175では認められなかったが, 他の一括廃棄遺構では煤やタールの付着が顕著な土師質土器や, 化粧土で白く飾った土師質土器などがあり, 特定の目的を果たした後に廃棄された様子が窺える。



写真35 井戸跡1



写真36 井戸跡2



写真37 土師質土器出土状態

## V 条例・規則等

### 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

**第1条** 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

**第2条** センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

**第3条** センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

**第4条** センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

**第5条** センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

## 1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

### (遵守事項)

**第6条** 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

### (損害賠償義務)

**第7条** 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

### (指定管理者が行う業務)

**第8条** 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

### (指定管理者の指定の申請)

**第9条** 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

### (指定管理者の指定等)

**第10条** 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。

事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

### (事業報告書の作成及び提出)

**第11条** 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

**第12条** 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

**第13条** 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

**第14条** 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

**第15条** 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

**第16条** 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

**第17条** この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

## 2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

**第1条** この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

**第2条** 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

**第3条** 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

**第4条** この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令21高文財第670号

財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年7月19日条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成21年12月17日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成22年4月1日から平成25年3月31日まで

本書作成データ

ハード：MacPro 2×2.8GHz Quad-Core Intel Xeon, PowerBookPro/2.5GHz

システム：MacOSX(10.8.4)

ソフト：JeditX2.27, Adobe Photoshop®13.0.5, Adobe Illustrator®16.0.4, Adobe Indesign®8.0.1など

フォント：モリサワOTF基本7書体, Times Italicなど

プリンタ：DocuPrint C3540(文書校正)

データ：Macintosh Full DTPで入稿

## 高知県埋蔵文化財センター年報

第22号

2012年度

発行日 平成25年9月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

TEL 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社





